

## 第5回 第2期西区地域福祉保健計画策定委員会

日時：平成21年9月28日（月）13:30～

場所：横浜市藤棚地域ケアプラザ

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議事録の確認

【資料1 議事録】

#### 3 地区別計画（案）について

【資料2-1 地区別懇談会について他】

【資料2-2 地区別計画案】

#### 4 素案について

【資料3-1 第2期西区地域福祉保健計画素案（案）】

【資料3-2 素案（案）への委員意見と反映の方向性（案）他】

#### 5 周知・意見募集と計画策定までのスケジュールについて

【資料4 周知・意見募集と計画策定までのスケジュール】

#### 6 その他

(1) 次回日程について      月      日（ ）      時      分～（1月下旬ごろ）

#### 7 閉 会

第2期西区地域福祉保健計画策定委員名簿（平成21年度）

第5回

	団 体	氏 名
1	西区PTA連絡協議会会長	天草 美香
2	西区保健活動推進員会会長	池田 ミネ子
3	西区連合町内会・自治会連絡協議会会長	岩崎 忠雄
4	西区民生委員児童委員協議会会長	大溝 茂 代理 武田 容子
5	西区主任児童委員代表	小松崎 啓子 代理 村上 雅美
6	西区薬剤師会会長	高堂 正
7	西区老人クラブ連合会会長	高橋 博 代理 石原 明
8	西区社会福祉協議会障害福祉関係分科会会長	深野 博子
9	西区食生活等改善推進員会会長	三村 扶美子 代理 石川 ひさ子
10	西区社会福祉協議会会長	柳川 荘一郎

（五十音順）

## 各地区の懇談会の代表者及び支援チームリーダー

(敬称略)

	懇談会	支援チーム
第一地区	村瀬 昭二	こども家庭障害支援課長 守屋 龍一
第二地区	神谷 利光	生活衛生課長 高橋 弘
第三地区	天笠 米蔵	総務課長 小嶋 哲夫
第四地区	米岡 美智枝	高齢支援課長 玉木 登士彦
第五地区	武田 容子	区政推進課長 福山 一男
第六地区	伊藤 美紀	地域振興課 学校支援連携担当課長 佐藤 伸彦

第4回 第2期西区地域福祉保健計画策定委員会 議事録

開催日時	平成21年7月27日（月）午後1時30分～3時40分
会 場	西区役所3階 研究室
出席委員	8人（欠席 2人）
事務局	地域ケアプラザ、西区社会福祉協議会、西区役所
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 前回までの確認【資料1】</p> <p>3 第1期の振り返りについて【資料2 第1期計画の振り返り】</p> <p>4 第2期計画の素案について【資料3 第2期計画素案（案）】</p> <p>【事務局説明】</p> <p>→本委員会として、6つの基本目標ごとに定められている小目標の中から重点推進目標を選び、第2期計画推進期間に取組みを進めていくこと、重点推進目標については、新たに福祉保健推進の目標値を定め、6年後に達成を目指すことを確認した。</p> <p>【基本目標ごとの検討事項】</p> <p>① 第2期計画策定にあたり、第1期計画で定めた福祉保健推進の目標値の見直しの必要性について</p> <p>② 重点推進目標の決定</p> <p>上記を踏まえ、各目標の決定事項は以下のとおり</p> <p>◆ 目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉保健推進の目標値のうち、達成した「駐輪・駐車のルールを守る」は見直しをはかり、第2期計画最終年度（平成27年度）の目標値を80%とする。</li> <li>・ 未達成の5つの目標値については変更しない。</li> <li>・ まちづくりの基本である、小目標③「<u>地域で助け合う関係を築く</u>」を目標1の重点推進目標とする。</li> </ul> <p>&lt;質疑・意見&gt;</p> <p>（区民アンケート結果について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民アンケートの中の「今後も西区に住み続けたい」と回答した人が57.7%と目標値90%達成まで差が大きいのが、何故か。マンションが急激に増え、居住年数の短い人が多いことが影響しているのか。</li> </ul> <p>→西区では転入・転出が増加しており、その影響もあるかもしれない。</p> <p>（福祉保健推進の目標値：「駐輪・駐車」のルールについて）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールを守るのは100%が当たり前。駐輪・駐車も100%にすべきではないか。自転車の乗り捨ても多い現状がある。</li> <li>・ 駐輪したくても駐輪場が整備されていない状況もあるので、100%にするのは難しい。</li> </ul>

- ・ 駐輪場が整備されていないところに行く時は、自転車に乗ってこないこともルールを守ることになる。

(重点推進目標について)

- ・ 今までの計画推進の中で、具体的な活動として「地域で助け合う関係を築く」ことへの取組みはあったのか。以前、リーディング目標で要支援者のガイドラインを作成したが、実際に見える関係をどのように築いていくのか。

→「地域で助け合う関係を築く」という小目標では悪徳商法への対策や交通安全等に関する講座の開催や障害への理解を深めるための啓発活動が各団体で行われてきた。災害時の要支援者への対応については、ガイドラインを作成後、次の段階として、要支援者の情報を把握する予定だった。

区社協で作成した要支援者への対応マニュアルや民生委員・児童委員が行っている要支援者への取組み等を中心に、この小目標について重点的に取組みを進めたいと考えている。

#### ◆ 目標3について

- ・ 福祉保健推進の目標値が減少した背景を把握した上で変更せず、継続的に取組む。
- ・ 小目標③「サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする」を目標3の重点推進目標とする。

<意見>

(サポートが必要な人からの発信について)

- ・ 西区内に拠点となる施設が整備され、地域とのつながりをつくる核になると思うが、サポートを必要とする人からの発信が大切。

(区民アンケートの結果について)

- ・ 区民アンケートの「障害者(児)と共に活動を行う機会があれば参加したい」や「共に活動する機会があった」という項目が減少しているが、互いに知り合う機会が少ない。活動の場についての情報をより広い範囲に伝える工夫が必要。

(重点推進目標について)

- ・ ありのままを受け入れるとは、配慮もしないでそのまま受け入れることではない。もう一歩進んで、働きかけることが必要。

#### ◆ 目標5について

- ・ 福祉保健の目標値は、すべて未達成であり、変更しない。
- ・ 小目標④「子どもは自分やみんなの子どもとして、みんなで育てる」を目標5の重点推進目標とする。

<意見>

(区民アンケート結果について)

- ・ 「未成年の喫煙を見かけない」と回答した人は増加しているが、まだ100%に到達していない。継続的な取組みが必要。

#### ◆ 目標6について

- ・ 新たに設定する小目標②「自分自身に必要な情報を選択する」を目標6の重点推進目標とし、福祉保健推進の目標値を定める。
- ・ 「必要な情報をホームページから得る」については、未達成であり変更しない。

<事務局提案>

第1期では、小目標が一つだったが、新たな小目標の設定を提案する。区民アンケート等で、情報量が多く必要な情報がわかりにくいという意見も寄せられており、一人ひとりが必要な情報を選択できるしくみづくりを検討する必要があると考えるからである。

<意見>

(重点推進目標について)

- ・ 現代ではインターネットが情報の中心となりがちだが、高齢者に伝わりにくい面がある。情報を整理するだけでなく、伝える手段を検討する必要がある。

◆ 目標2と4について

- ・ 目標2の小目標を目標4に集約させた案を事務局で作成し、次回委員会までに委員にご意見をいただき、まとめた上で確定していくこととなった。

<事務局提案>

目標2の中の小目標②③④は地域活動への参加に関する項目であり、目標4の「地域全体がつながりを持つまち」と趣旨が同じであると考え。目標2については健康づくりを中心とした取組みとし、小目標②③④を目標4に集約させる提案をしたい。

<意見>

- ・ 第1期計画策定時に目標2は健康づくりを中心とした保健の領域を推進していく目的で定めた。まちのつながり、生活のつながりを重点において考え整理するのであれば、目標4に集約する方向性でよい。

5 その他

- ・ 第5回委員会の日程について

当初の予定では9月上旬を予定していたが、次回の検討事項である地区別計画の基礎となる地区別懇談会の進ちょく状況から、第5回の開催時期を9月の下旬としたい。

<意見>

- ・ 地区別計画について、懇談会は限られたメンバーのみの参加となっている。実行性のある計画とするためにも、策定段階からの幅広い意見集約・住民参加の仕掛けが重要である。

→ 平成21年9月28日(月) 午後1時30分～とした。

6 閉会

## 地区別懇談会について

地域に暮らす人たちが中心となり、身近な地域におけるきめ細やかな福祉保健の推進を図るための話し合いの場です。

また、懇談会を通じて、区全体で推進してきた取組みを、地域特性や課題に合わせ、より身近な地域での取組みへと広げていくとともに、話し合われたことや具体的な取組みを第2期計画における地区別計画に反映させることとしています。

### 【開催単位】

各地区連合町内会（みなとみらい地区は今後実施予定）全7地区

### 【メンバー】

各地区で町内会やこども、障害、高齢者、防犯などさまざまな分野・団体に活動されている方など（各地区で10～18人）

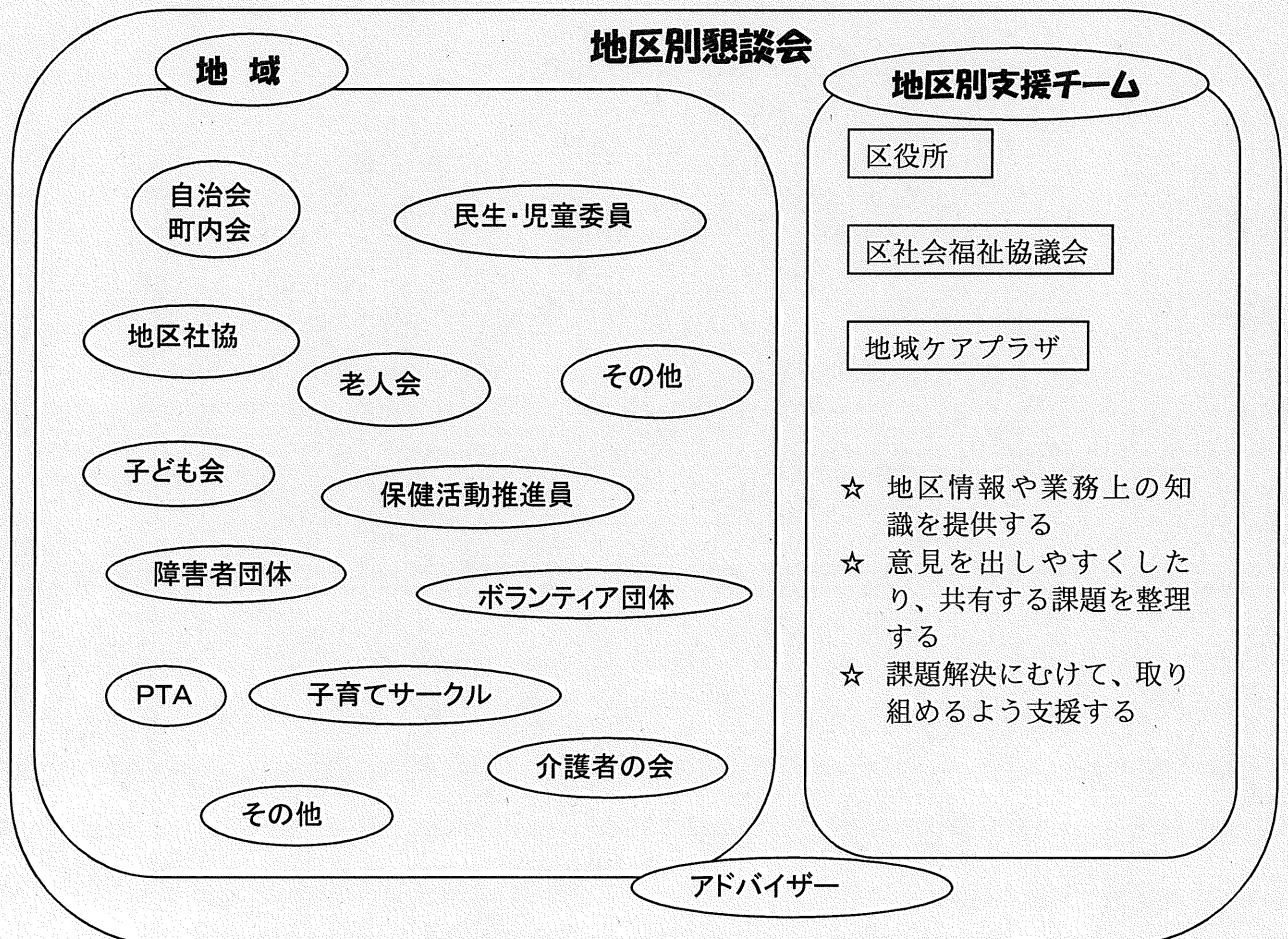
### 【支援体制】

区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザは、チームとして話し合いに参加するとともに、懇談会の運営や懇談会の取組みの支援をします。

アドバイザーは懇談会の進め方や他地域の取組み等について助言します。

### 【懇談会で話し合うこと】

- ① 地域の現状を確認します。  
地区の特性、各団体の活動、地域の拠点、社会資源など
- ② 課題を整理し、地域全体の課題を抽出します。  
課題の優先度や重要度などを確認します。
- ③ 地域の目指す姿（目標）に到達できるように、具体的な活動につなげます。



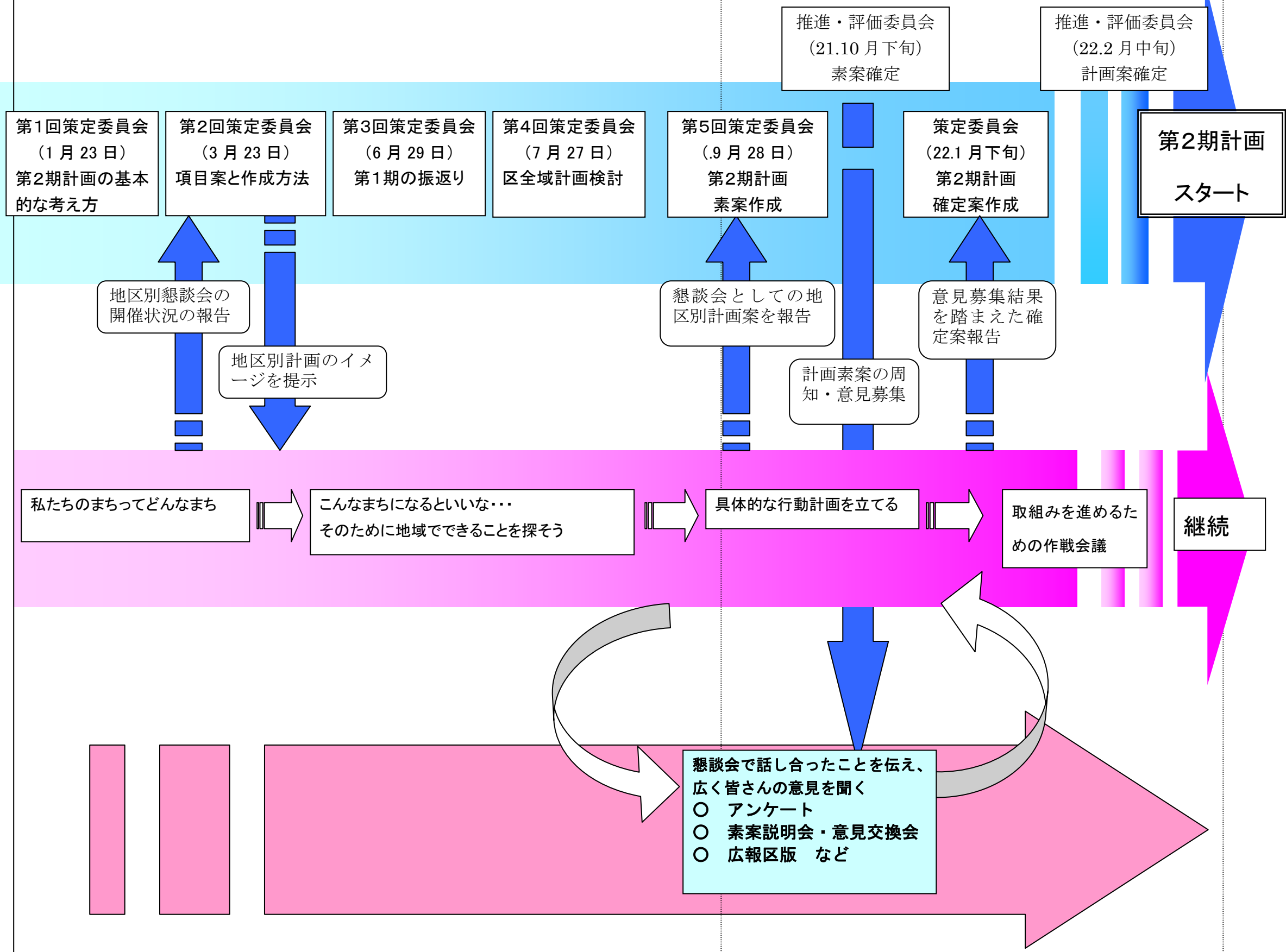
# 地区別計画の作成方法

20.10                      21.4                      21.9頃                      22.4

第2期計画の策定

懇談会

地域



にぎやかなあそび場づくり

例えば……

- ★ご近所づきあいと支えあいを大切にするまち
- ★みんなが声をかけあう安心なまち
- ★みんなが元気にイキイキと暮らせるまち



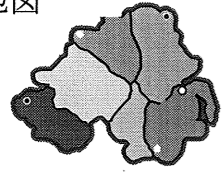
平成20年度 地区別懇談会実施状況

	第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	みなとみらい地区
1 回目	H20.10.30 18:00～19:00 地区:13人 支援チーム:12人 ○地区別懇談会の趣旨、西区地域福祉保健計画の説明 ○意見交換(2グループ) 「第一地区の特徴について(地区の自慢・課題)」  (自慢) 歴史が古い、町内会の仲が良い、掃部山公園の桜、文化施設が多い等 (課題) 少子高齢化、路地が狭く防災面での注意が必要、商店街に元気がない、バスが廃止になる等	H20.10.28 19:00～20:20 地区:13人 支援チーム:13人 ○地区別懇談会の趣旨 ○西区地域福祉保健計画説明 ○意見交換(2グループ) 「あなたが考える第2地区での豊かな暮らしとは」  商店街の問題(活気低下、道路への品出し等)、少子高齢化、バスの廃止、町内活動への参加低下(特に若い世代)、マンションが増えて顔が見えなくなった、交流の場を利用して情報発信することが必要等	H20.10.29 19:00～20:55 地区:8人 支援チーム:12人 ○地区別懇談会の趣旨、西区地域福祉保健計画の説明 ○意見交換(2グループ) 「地域の自慢」「地域の課題」 (自慢) 東久保町のまちづくり協議会で災害時の対応検討、商店街を中心に庶民的なまち、居住年数の長い住民が多く協力体制ができています、地域全体が静かで安全等 (課題)山坂、狭い路地が多く救急車も入れない、交通不便、新しい転入者との交流、商店街と地域との共存、少子高齢化等	H20.12.5 19:00～20:30 地区:10人 支援チーム:15人 ○地区別懇談会の趣旨、西区地域福祉保健計画の説明 ○意見交換(2グループ) 「日頃の活動の中で感じていること」  高齢者の見守り制度の一本化が必要、異世代の交流が必要、夜間公園の周囲が危ない、地域の顔の見える関係づくりが難しくなってきた、あいさつ運動が大切、自治会と地区社協の関係が良く協力的、ふれあい会活動が活発、地域と行政が話す場はとても大切等	H20.11.17 18:00～20:00 地区:14人 支援チーム:14人 ○地区別懇談会の趣旨、西区地域福祉保健計画の説明 ○意見交換(3グループ) 「地域の自慢」「地域の課題」  (自慢) 行事やお祭りがさかん、子育てサロンが盛況、清掃活動や防犯パトロールなど地域活動が活発、買い物等に便利等 (課題) 役員の高齢化、若い世代の流出、団体間の交流がない、マンション住民との交流が希薄等	H20.10.28 13:30～15:30 地区:13人 支援チーム:11人 ○地区別懇談会の趣旨、西区地域福祉保健計画の説明 ○意見交換(3グループ) 「日頃の活動で感じる課題」  新旧住民の交流が少ない、町内会役員の固定化、町内会の担い手不足、個人情報への壁があり、高齢者の把握が困難、あいさつを積極的に行い、顔見知りになることが大切、友愛、民生、ふれあい会など各団体が同じような活動をしている等	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>実施にむけて調整中</p> </div>
2 回目	H20.11.18 18:00～20:00 地区:13人 支援チーム:8人 ○前回の振り返り ○意見交換(2グループ) 「自慢、課題の掘り下げ」 「良い点をどう伸ばすか、課題をどのように解決できるか」 (前半) 町内会のまとまりが良いため、子どもや高齢者の見守り、交流がうまくいく。一方、新旧住民のとの交流をどうすすめていくのが課題。 (後半) 歴史的な名所の宣伝方法を検討、新しい住民と行事や防災等をきっかけに関係性を築いていくことが必要、バス路線継続など	H20.11.26 19:00～20:30 地区:10人 支援チーム:10人 ○前回の振り返り ○地域が主体的に課題解決した事例を紹介(アドバイザー) ○意見交換(2グループ) 「地域の自慢」  歴史がある街で神社や寺、商店街を中心としたお祭りが盛ん、親子代々住んでいる、高齢者の見守りや子どもたちへの挨拶に力を入れている、街がきれい、らいぶステーションが憩いの場になっている、地域と学校の仲が良い、小中学校一貫教育等	H21.1.28 19:00～21:00 地区:7人 支援チーム:11人 ○前回の振り返り・共有化 ○意見交換(2グループ) 「課題の掘り下げ」 ○課題の絞りこみ・優先順位決め (前半)商店街の問題(品出し、トイレ)、古いビルのゴミ出し場の問題、自治会問題(住民参加、担い手不足) (後半)投票結果「高齢化に伴う問題」「若い世代や転入者との交流」が上位。この二つは共通点も多く、表裏の関係。次回以降、これらの問題に焦点をあわせ、地域でできることについて議論していく。	H21.2.6 19:00～20:30 地区:8人 支援チーム:8人 ○「懇談会のめざすところ」説明 ○前回の振り返り ○地区データ(人口、高齢者数、出生数、身障手帳等所持者数等)の説明 ○課題の確認 地域における子ども会の現状、障害者が参加した防災訓練について、活発な地区社協の活動について話し合った。懇談会で話されたことは、地域の組織を通じて共有したり、行われている行事等の機会を生かして広めていく提案があった。	H21.1.19 18:30～20:30 地区:15人 支援チーム:17人 ○前回の振り返り ○懇談会で目指すところについて ○課題・自慢の抽出 ○意見交換(3グループ) 「地域でできることを考えよう」  (地域の担い手不足) 日頃のあいさつや同世代からの声かけ、順番で役員をやる仕組みづくりなど。 (新旧住民の交流が少ない) 魅力的なイベントの開催、情報の伝え方の工夫、一声運動など。	H20.11.26 13:30～15:30 地区:11人 支援チーム:7人 ○前回の振り返り ○意見交換(3グループ) 「地域の宝について」 解決可能、重要な課題への投票 「課題の掘り下げ」 (前半)住民どうしが協力的、学校と地域の交流も盛ん、ふれあい会で高齢者の見守りを行っている、スポーツセンターや公園が多く地域の交流が盛ん (後半) 参加しやすい企画や居場所作り、顔見知りを増やす、町内会の活動を知ってもらい、地区全体でイベントを行い町内に関心をもってもらうきっかけづくり	
3 回目	H20.12.17 18:00～20:00 地区:10人 支援チーム:9人 ○第1回・第2回の振り返り ○意見交換(全体) 「第一地区として取り組む課題」 自治会に加入しない、会費は払うが活動に参加しない、イベントなどを手伝ってはくれるが主催はしない、若い世代が出て行ってしまいが、その根底にあるのは新旧住民の交流をいかにして深めていくかなど。	H21.2.2 19:00～20:30 地区:9人 支援チーム:11人 ○前回の振り返り ○意見交換(2グループ) 「地域の課題を解決するためのアイデア」 2グループとも新旧住民の交流に問題意識があった。 町内会のPR方法の検討が必要、町内会についてのアンケート調査、学校と連携して小、中学生をもっと地域活動に巻き込む、子育て中の人を誘う等のアイデアが出た。	H21.3.13 19:00～21:00 地区:5人 支援チーム:8人 ○前回の振り返り ○計画推進イベント発表会ビデオ上映 ○高齢化に伴う問題、若い世代、転入者との交流という課題について、地区内で現在行われていることを確認。 高齢化の問題について、地区のマップに地区の社会資源(町内会館、老人クラブ、ふれあい会、町内会の現況など)をおとし、情報交換。	(H21.3.26開催延期) 地域の中心メンバーと支援チームとで今後の展開について打ち合わせた。 4月以降地域のつどい等で広く住民の意見を聞きながら、第4地区をよりよくしていくための話し合いにつなげていくこととした。	H21.3.12 18:30～20:30 地区:16人 支援チーム:15人 ○計画推進イベント発表会ビデオ上映 ○意見交換(3グループ) 「地域の活動を知らう」 地域や各団体の行事のイベントカレンダーを作成。 各団体から一押し活動をPRしていただいた。 確認・見学についての打ち合わせ 次回に向け、イベントカレンダーに掲載された行事等メンバーが参加することとした。	H21.2.6 13:30～15:30 地区:9人 支援チーム:6人 ○前回の振り返り ○計画推進イベント発表会について:内容の確認、発表者決定 ○懇談会のこれから:気軽に立ち寄れるような拠点を、新旧住民が交流がはかれるようなイベントを行ってはどうか。 浅間コミュニティを地域の拠点として、活用するのはどうか。自治会によって、世代別の部(少年、成年等)がある。若い時から町内会活動に関心を持ってもらえば、将来の担い手となるのではといった意見が出された。	
4 回目	H21.2.5 18:00～20:00 地区:12名 支援チーム:11名 2/25計画推進イベント発表会資料の作成 課題:新旧住民の交流、高齢化、少子化、交通手段 地域でできること:名所を使って住民が知り合う「場」づくり、町内会の活動を周知し、新しい担い手を育成する、町内会の掲示板を活用し、地域の活動に関心をもってもらう、新しいマンションの建設時に町内会への加入を促すくみが作れないか。	4月以降	5月以降		H21.6.17	4月以降	

平成21年度 地区別懇談会実施状況

	第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	みなとみらい地区
1 回目	<p>H21.9.4 18:30～20:30 地区:11人 支援チーム:8人 ○地域福祉保健計画と地区懇談会について ○昨年度の振り返りと今日の進め方 ○意見交換(2グループ) 「地区シート(昨年度の話し合いのまとめ)」で話し合いが足りなかったところや具体的な行動について検討 町内会の加入について、バリアフリーについて、町内会への参加について(町内会活動を周知し、地道に参加を働きかけることの大切さ)、町内会活動へ若い人に参加してもらおう対策について(頼みたいことを具体的に伝える工夫)、災害対策について(町内にある企業との連携について) ○健民祭でのアンケート内容について 地区内で困っていること、情報が伝わっているか、町内会の活動の周知</p>	<p>H21.9.14 19:00～ 地区: 11人 支援チーム: 6人 ○地域福祉保健計画と地区懇談会について ○昨年度の振り返りと今日の進め方 ○意見交換(2グループ) 「地区シート(昨年度の話し合いのまとめ)」で話し合いが足りなかったところや具体的な行動について検討 町内会の加入について(町内会加入のメリットを説明していく、行政でも転居時に説明してほしいなど) 商店街の品出しの問題について、新築マンションの増加、子ども会に入っていない子どもへの対処について →どの問題も顔見知りになることから始めたい。あいさつ運動を地区懇談会のメンバーから推進しようと発言あり</p>	<p>H21.8.21 19:00～21:00 地区:16人 支援チーム:9人 ○地域福祉保健計画と地区懇談会について ○昨年度の振り返りと今日の進め方 ○意見交換(2グループ) 「地区シート(昨年度の話し合いのまとめ)」で話し合いが足りなかったところや具体的な行動について検討 福祉施設と地域との交流について(施設の有効活用・地域へのPRなど)、高齢者の外出支援・交通手段について(食事会への送迎のサポート、買い物やケアプラザ等への移動手段)、交番について(人がいない)、地域活動の担い手不足について(高齢者中心で中間層がいないため、地域活動そのものが継続できるか不安)、具体的な行動について(懇談会で話し合われた坂道への手すりやベンチの設置等について、ぜひ今年には実行に移したい)</p>	<p>H21.9.11 19:00～ 地区: 10人 支援チーム: 10人 ○地域福祉保健計画と地区懇談会について ○昨年度の振り返りと今日の進め方 ○意見交換 「地区シート(昨年度の話し合いのまとめ)」で話し合いが足りなかったところや具体的な行動について検討 子どもを取り巻く状況や子ども会の役員のなり手が居ないことなどについて話し合い 高齢者に関しては認知症高齢者や独居が増えており24時間地域で見守れないもどかしさや認知症じゃなくても高齢者が共同生活できるグループホームがあればと言う意見</p>	<p>H21.6.17 18:30～20:30 地区:14人 支援チーム:8人 ○西区地域福祉保健計画と地区別懇談会について ○昨年度の振り返りと今日の進め方 ○意見交換(3グループ) 地区シート(昨年度の話し合いのまとめ)の目標3について、話し合い</p>	<p>H21.9.10 14:00～16:00 地区:9人 支援チーム:6人 ○西区地域福祉保健計画と地区別懇談会について ○昨年度の振り返りと今日の進め方 ○意見交換(3グループ) 地区別計画案の地区の目標について検討 町内会への関心が薄いなど課題の他、「人と人のつながりを大切に」「団体どうしの横のつながり」「皆さんの参加をまってます」「コミュニケーションのある魅力あるまちづくり」等案が出された。まとめは次回持ち越し</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>実施にむけて調整中</p> </div>
2 回目	<p>H21.10. 21 18:30～20:30(予定) ○地区別計画 地区目標について</p>	<p>H21.10.16 19:00～ 地区: 人 支援チーム: 人</p>	<p>H21.9.14 19:00～21:00 地区:15人 支援チーム:9人 ○具体的な行動について 山坂が多いため坂道に手すりやベンチを設置したい(一度所管課を呼べないか) みんなが外出しやすくなるようなマップ作り(トイレが借りれるところ一覧など)を進めてはどうか 「何か出来た!!」という目に見える成果があるとよい</p>	<p>H21.10.5 19:00～ 地区: 人 支援チーム: 人</p>	<p>H21.7.21 地区:13人 支援チーム:8人 ○意見交換(3グループ) ・地区の目指す姿について ・目指す姿に対し、具体的な行動計画を検討  第5地区の目標 (目標1)気持ちよくあいさつができて顔の見える安心できるまち (目標2)世代・新旧・企業を交えた(共に過ごす)まちづくり</p>	<p>H21.9.29 14:00～16:00(予定) ○地区の目標、具体的な行動について</p>	
3 回目							

地図



地区の特徴

## 第一地区の目標

掃部山公園、岩亀稲荷、御所五郎丸の墓など歴史的な名所と横浜能楽堂や県立音楽堂など文化施設が多いまちです。

古い町並みとマンションなどの新しい町並みが共存しています。人口： 10,399人 世帯数：6,047世帯 65歳以上人口：2,001人（19.2%）

出生数：98人 6歳未満人口：503人（4.8%）7歳～15歳未満人口：470人（4.5%）（平成20年9月末現在）

（10月21日の第6回地区懇談会で検討）

## 【課題】

- （安心安全なまちづくり）・路地が狭い、古い町並みが残っているところがあり、防災面で注意が必要  
 ・分別などのごみ出しのルールを守らない・見守り活動に若い世代の参加が少ない
- （地域の担い手づくり）・町内会役員の高齢化・次世代の担い手不足・商店街に元気がない  
 ・町内会に加入しない人が増えている・町内会に加入しても、地域の行事に参加しない人が増えている
- （みんなが共存するまち）・道が平坦ではなく、歩行が困難なところがある
- （地域がつながりをもつ）・転入者など住民どうしの交流 ・ワンルームマンション居住者等との交流
- （子どもが健やかなまち）・核家族が増えて、気軽に相談したり、預けあう関係がもてない  
 ・子どもの母親たちは日中働いている人が増え、地域と顔見知りの関係になりにくい
- （情報が正確に伝わるまち）・転入者に地域の情報が伝わりにくい。

## 【現在取り組まれていること】

- 子どもや高齢者の見守りがさかん：まもり隊、元気かい、ふれあい会  
 健民祭に活気がある（対抗リレーなど）  
 歴史的な名所・文化施設が多く地域の交流の場となっている：掃部山公園、岩亀稲荷、御所五郎丸の墓  
 おまつりを通じた地域の交流：虫の音を聞く会、納涼の夕べ、小学校と地域の高齢者との交流会  
 子育て支援：とべとベサロン  
 戸部小学校は歴史が古い（創立130年）

## 具体的な行動計画（現在検討中）

## 町内会の活動を活発にする

- ・マンション建設時、町内会への加入を促すしくみづくり（行政との連携も行う）
- ・掲示板や回覧板を使って、地道に参加を働きかける
- ・行事等の手伝いで具体的にお願ひしたいことを伝える
- ・転入者への継続的な声かけ
- ・町内会の活動をPRする

## 新旧住民の交流を促す

- ・地域とのパイプ役になってくれる人の育成
- ・若い世代間の声のかけあい
- ・情報の伝え方の工夫
- ・掲示板の活用（趣味や関心事から始める）
- ・歴史的な名所を活かす

## 安心安全なまちづくり

- ・防災をキーワードとした地域づくり
- ・日頃から企業に声をかけ、防災時の協力を依頼しておく

## 子どもが健やかなまち

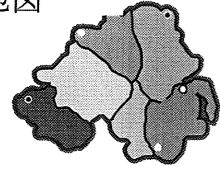
- ・戸部小学校での語り部活動（小学校と協力し、昔から住んでいる人が地域のことを語る）

行政の取組み

社協の取組み

地域ケアプラザ  
の取組み

地図



地区の特徴

杉山神社を抱え、区役所に近く、医療機関・商店街・小中学校・幼稚園が揃い住宅が密集している。国道1号線に近く比較的平坦な地区で交通の便も良い。

地区人口：9,085人 / 西区人口 92,696人 世帯数：4,233世帯 65歳以上人口：1,721人（18.9%）/ 西区全体 17,340人（18.7%）

出生数：78人 6歳未満人口：530人（5.8%）/ 5,115人（5.5%） 7歳～15歳未満人口：451人（5.09%）/ 5,200人（5.6%） （平成20年9月末現在）

第2地区の目標

（次回以降の地区懇談会で検討）

【課題】

- （安心安全なまちづくり）・隣近所の人がわからない。 ・商店街の路上駐車が多い。
- （地域の担い手づくり） ・町内会役員のなり手がいない。 ・行事参加者の顔ぶれがあまり変わらない。
- （みんなが共存するまち）・商店街の品出しが通路にはみだして車いすの人などが通りづらい。
- （地域がつながりをもつ）・町内会未加入者の増加
- （子どもが健やかなまち）・子どもが少ない。
  - ・一号線のマンションは子どもが大きくなったら転居してしまうことが多い。
- （情報が正確に伝わるまち）・情報を流しても行事の参加につながらない。 ・回覧板を読まない人が多い。
  - ・回覧板の情報が多すぎて読みづらい。

【現在取り組まれていること】

- ・地域での子ども達の見守り（学援隊活動） ・高齢者の見守り（ふれあい会結成率100%）
- ・商店街で品出し禁止へのキャンペーンの実施 ・ハザードマップの作成
- ・ほっと幸せ会（配食サービス） ・保健活動推進員中心に毎月第2日曜日にウォーキング開催
- ・「ふれあいの夕べ」の開催 ・商店街にある交流の場「らいぶステーション」
- ・学校と地域の連携
- ・各集まりでの情報提供
- ・町内会未加入者への加入の声かけ

具体的な行動計画（現在検討中）

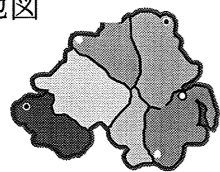
- 1) 地域での顔見知りを増やすために家庭の中からあいさつ運動・地域の子供達へのあいさつ運動を始めます。
- 2) 学援隊の活動を更に続け活発になるようにします。
- 3) 町内会の必要性や加入のメリットを伝えていきます。
- 4) 地域のお祭りなどの行事への参加を呼びかけ、交流を図ります。

行政の取組み

社協の取組み

地域ケアプラザの取組み

地図



地区の特徴

藤棚商店街から久保山にかけて急傾斜の山坂を持つ地区。幹線道路まで狭小な道が多い。長く暮らしている方が多い。

地区人口：16,473人 / 西区人口 92,696人 世帯数：7,056世帯 65歳以上人口：4,329人（26%）/ 西区全体 17,340人（18.7%）

出生数：85人 6歳未満人口：662人（4%）/ 5,115人（5.5%） 7歳～15歳未満人口：9701人（5.8%）/ 5,200人（5.6%）（平成20年9月末現在）

第3地区の目標

（次回以降の懇談会で検討）

- （目標1）福祉施設が多くできたこの地区の特徴を活かしてさまざまな人がふれあえるまち
- （目標2）山坂が多い地形でも高齢者や障がい者が外出しやすいまちづくり

【課題】

- （安心安全なまちづくり）・高齢者世帯が多い。・単身者のごみ出し ・商店街の路上駐車が多い。
- （地域の担い手づくり） ・町内会役員の高齢化 ・次世代の担い手不足
- （みんなが共存するまち）・車いすやバギーで（商店街）に買い物に来る方が増えたが車いす等が通りづらい。
- （地域がつながりをもつ）・転入者と地域のつながりが薄い。 ・地域と商店街の交流が少なくなった。
  - ・山坂が多く、高齢者が地域の食事会などに参加しにくくなっている。
- （子どもが健やかなまち）・子どもが少ない。
- （情報が正確に伝わるまち）・転入者に地域の情報が伝わりにくい。

【現在取り組まれていること】

- ・防犯パトロール ・地域での子ども達の見守り ・高齢者の見守り ・地域でのごみ出しの協力
- ・老人クラブ単位での体操教室の開催
- ・町内会館での子育て支援
- ・小中学校から地域へ行事の参加招待
- ・情報アドバイザーe ネットにし探検隊
- ・東久保町夢まちづくり協議会による災害時危険箇所のチェック

具体的な行動計画（現在検討中）

（目標1）

- （1）防災訓練や公園清掃など行事を通じた障害者と地域とのふれあいの場づくりをすすめます。
- （2）将来を担う子ども達を地域で暖かく見守り育てていきます。
- （3）世代や団体を超えてつながりを広げるために第3地区文化祭の開催を目指します。
- （4）既存のさまざまなマップの情報をとりいれた3地区便利マップを作り、地域住民に配付します。
- （5）地域の資源である福祉施設や商店街に協力してもらい高齢者や障害者が生活しやすいまちづくりをすすめます。

（目標2）

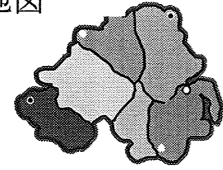
- （1）高齢者を見守り訪問など地域での助けあい・支えあい活動を続けます。
- （2）高齢者が外出しやすいように地域内の福祉施設などが協力し、地域内に誰でも使えるトイレ・休憩場所を増やします。
- （3）高齢者が外出しやすいように坂道への休憩ベンチや手すりの設置を目指します。
- （4）宅配や電球交換など、商店街と共に高齢者の生活を支えるサービスを考えます。

行政の取り組み

社協の取り組み

地域ケアプラザの取り組み

地図



地区の特徴

野毛山公園を抱える山坂の多い地区。通院や買い物などの不便さがあり、道路が狭小である。地区のまとまりが良く、町内会館も多い。ふれあい会の活動が活発である。

地区人口：15,083人 / 西区人口 92,696人 世帯数：8,627世帯 65歳以上人口：3,578人（23.7%）/ 西区全体 17,340人（18.7%）

出生数：116人 6歳未満人口：716人（4.7%）/ 5,115人（5.5%） 7歳～15歳未満人口：912人（6%）/ 5,200人（5.6%）（平成20年9月末現在）

浜駅西口周辺に位置し、デパート、商店、繁華街、銀行等の高層ビルでにぎわう場所で、高齢者もビルの上層階に住んでいる人が多い。

第4地区の目標

（次回以降の地区懇談会で検討）

【課題】

- （安心安全なまちづくり）・単身高齢者が多い
  - ・狭小な道が多く、ごみ出しや緊急時の問題がある
  - ・認知症高齢者の増加
- （地域の担い手づくり）・町内会役員の担い手不足
- （みんなが共存するまち）
- （地域がつながりをもつ）・転入者と地域のつながりが薄い
  - ・山坂が多く、参加してほしい方が参加しにくくなっている。
- （子どもが健やかなまち）・子どもが少ない。
  - ・子ども関係の活動が手薄になっている。
  - ・子育て家庭の母親が孤立感を感じている
- （情報が正確に伝わるまち）・インターネットで情報は氾濫しており、逆に必要な情報を選ぶことが難しい。

【現在取り組まれていること】

- ・各町内会での防犯パトロール
- ・高齢者の見守り
- ・町内会・地区社協共催での「みんなのまつり」やコンサートの開催
- ・地区社協とふれあい会合同の地区別の食事会の開催
- ・学校主催の地域との交流行事
- ・子育てサロンの開催
- ・「みんなのまつり」で地域の活動内容のパネル展示

具体的な行動計画（現在検討中）

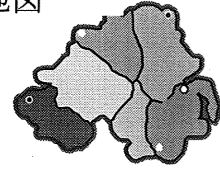
- 1) 高齢者の地域での見守り体制の一本化を目指します
- 2) 子育てに対する地域の情報など必要な情報を伝える工夫を考えます
- 3) 高齢者と子ども達とのふれあいの場を設けます
- 4) 地域の子ども達にあいさつなど声をかけます

行政の取組み

社協の取組み

地域ケアプラザの取組み

地図



地区の特徴

横浜駅周辺に位置し、デパート、商店、繁華街、銀行等の高層ビルでにぎわう場所で、高齢者もビルの上層階に住んでいる人が多い。  
 地区人口：15,536人 / 西区人口 92,696人 世帯数：9,029世帯 65歳以上人口：2,044人（13.2%）/ 西区全体 17,340人（18.7%）  
 出生数：149人 6歳未満人口：914人（5.9%）/ 5,115人（5.5%） 7歳～15歳未満人口：760人（4.9%）/ 5,200人（5.6%） （平成20年9月末現在）

第五地区の目標

- （目標1）気持ちよくあいさつができて顔の見える安心できるまち（町）
- （目標2）世代・新旧・企業を交えた（共に過ごす）まち（町）づくり

【課題】

- （安心安全なまちづくり）・横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配。  
・災害時の帰宅困難者の問題 ・高齢者などの把握が困難
- （地域の担い手づくり）・町内会役員の高齢化 ・次世代の担い手不足・1人の人が複数の役割を担っている。
- （みんなが共存するまち）・障害者に地域の行事の情報が届きにくい。  
・障害者からの情報発信が不足しており、活動が見えにくい。
- （地域がつながりをもつ）・高齢者どうしの交流が希薄・転入者と地域のつながりが薄い  
・団体間の交流が少ない ・マンションでの交流が少ない。
- （子どもが健やかなまち）・子どもが増えて学校で教室が不足している。・幼稚園の数が少なく入園しにくい。  
・マナーを知らない子どもがいる。
- （情報が正確に伝わるまち）・転入者に地域の情報が伝わりにくい。

【現在取り組まれていること】

- ・防犯パトロール ・さわやか清掃（岡野）、平沼小見守り隊、駅の清掃活動
- ・友愛活動推進員や食事サービスグループが高齢者の交流の機会をつくり、見守り活動をしている。
- ・災害時の対応に町内会と商店街が協力し取り組んでいる。
- ・老人クラブ、グランドゴルフなど幅広い年齢層で運動がさかん。
- ・保健活動推進員を中心にウォーキングに取り組んでいる。
- ・作業所で積極的に地域の防災訓練に参加している
- ・岡二フェスティバル、水天宮のおまつり、芋煮会
- ・子育て支援の場で地域情報を伝えている。・親子ふれあい会

具体的な行動計画

（目標1）

- （1）子ども、若い世代があいさつする習慣を身につけます。あいさつをし、声をかけあいます。
- （2）一声運動で知らない人にも声をかけます。
- （3）お祭りで知り合ったり、町内会の行事と一緒に取り組みます。
- （4）団体が互いの活動を伝え合います。
- （5）新築マンションに転居してくる人に町内会の活動を事前に伝えます。
- （6）「にこやか しあわせ ぐらしのうた」を広めます。

（目標2）

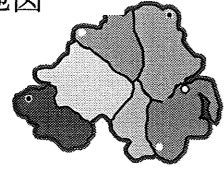
- （1）季節ごとのイベント（お祭り、餅つき）、スポーツを通じて知り合います。  
行事に家族で参加します。
- （2）イベント参加者へ声をかけ、担い手に誘います。
- （3）町内会の役員になる人を増やします。
- （4）子どもにイベントやお祭りを通じて、地域の人々の顔を知ってもらい、地域との関わり方を伝えます。  
子ども会の活性化を図ります。
- （5）企業と住民が地域の清掃活動に共に取り組むなど、企業とのつながりを大切にします。

行政の取り組み

社協の取り組み

地域ケアプラザ  
の取り組み

地図



地区の特徴

西区の中で一番人口の多い地区。神奈川区、保土ヶ谷区と接しており、地形は山坂が多い。15歳未満の人口の割合が高く、65歳以上人口の割合が区平均よりやや低くなっている。  
 人口：22,086人 世帯数：11,731世帯 65歳以上人口：3,831人（17.3%） 出生数：233人 6歳未満人口：1,392人（6.3%） 7歳～15歳未満人口1,384人（6.3%） ※（ ）内は地区内人口比に対する割合（平成20年9月末現在）

第6地区の目標

（9月29日の第5回地区懇談会で再検討）

- （目標1）人と人のつながりを大切にコミュニケーションのあるまちづくり
- （目標2）町内（会）への関心を持って、人とのつながりをつくりましょう
- （目標3）皆さんの参加をお待ちしています（皆さんの参加をまっす）

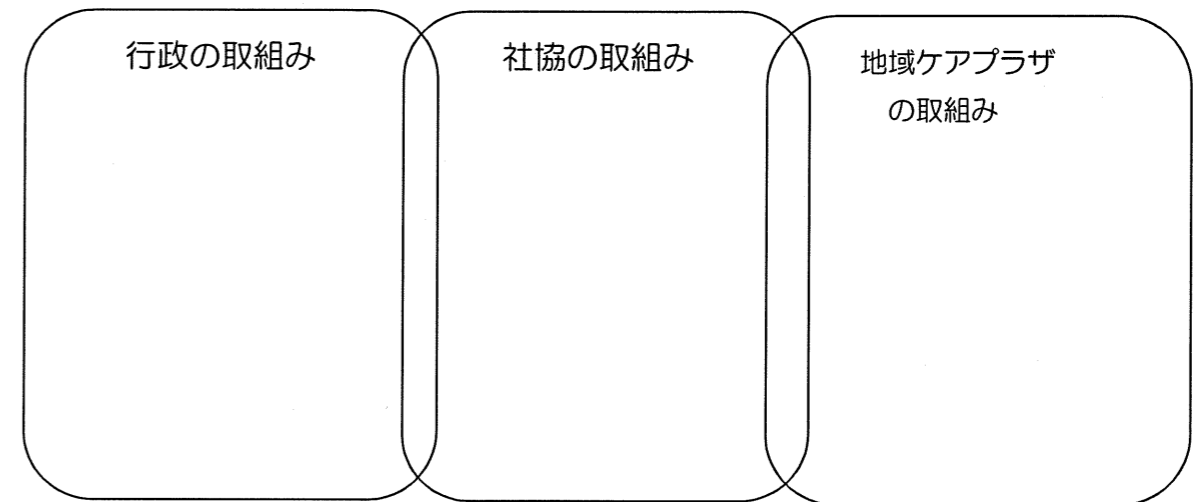
【課題】

- （安心安全なまちづくり）・ひとり暮らし高齢者の把握が困難・ごみ出しのルールを守らない。  
 ・近隣に住んでいる人の顔がわかりにくい。
- （地域の担い手づくり）・町内会役員の高齢化 ・次世代の担い手不足・自治会町内会に関心のない人が増えている。 ・1人の人が複数の役割を担っている。 ・老人クラブの会員が減少
- （みんなが共存するまち）・地域の中で立ち寄れるトイレが少ない。
- （地域がつながりをもつ）・転入者と地域のつながりが薄い ・マンションでの交流が少ない  
 ・団体どうしの活動が見えにくい ・活動が重複している
- （子どもが健やかなまち）・働く親が増えるなど、子ども会の担い手不足
- （情報が正確に伝わるまち）・転入者に地域の情報が伝わりにくい。 ・回覧物が多すぎる。  
 ・情報を受け取る側の関心が薄い

【現在取り組まれていること】

- ・ 防犯パトロール（警察、消防団と連携）・ふれあい会・老人会や町内会による学校の登下校時の見守り
- ・ 健民祭・食事サービスグループでは会食会の際の体操・老人会のカラオケやランドゴルフ
- ・ 高齢者が積極的に地域の会合に出席している。・ゴムバンド体操、マイ体操への取組
- ・ 子ども会から婦人部、老人部へと活動をつなげている。
- ・ 浅間神社のお祭りでは町内から神輿が出て盛大 ・ 防災訓練、芋煮会などで若い世代と交流
- ・ 地区内に公園が多いので、人と触れ合う機会がある。 ・ 焼き芋大会 ・親子ふれあい会
- ・ 中学生対象の赤ちゃんとのふれあい ・浅間台小学校と高齢者との交流
- ・ 地域と学校が連携して、子どもたちのあいさつが増えた。 ・宮谷小学校が100周年を迎えるに際し、地域と学校が連携した。・地域行事の情報を積極的にPR ・掲示板を活用し、地域情報を発信
- ・ 拡声器付き車を活用 ・ 掲示板の位置をバス停前などいろいろな人の目にふれる場所に移動した。
- ・ 活動時に揃いのジャンパーを着て町内会を認知してもらう。

具体的な行動計画（現在検討中）





## 第2期西区地域福祉保健計画素案（案）

# 第1章 第2期西区地域福祉保健計画の策定にあたって

## 1 横浜市の都市づくりの方向性

本市においては、平成18年6月に横浜市基本構想(2025年頃を展望した長期ビジョン)により「市民力」と「創造力」により新しい「横浜らしさ」を生み出す都市を目指すことが示され、横浜市の都市づくりの方向性として、市民主体の地域運営(エリアマネジメント)を支援していくことが示されました。

さらに、平成21年1月には、大都市・横浜にふさわしい新たな地方自治制度について検討してきた横浜市大都市制度検討委員会が、報告書「新たな大都市制度創設の提案」をまとめ、広域自治体から独立した新しい大都市制度の下で、大都市の地域レベルに「市民協働型の地域自治組織」を設置することが提案されました。

## 2 2025年の西区と地域福祉保健計画が目指すもの

少子高齢化の進展や世帯構成の変化に伴い、介護を始めとして、地域で支援が必要な人が増えるため、限りある人材や、資源を生かし、誰もが安心して生活できるような社会の仕組みをつくる必要があります。地域で暮らす人々が、他人を思いやり、お互いを支えあう気持ちを持ち、住みなれた地域で誰もがその人らしい、安心して充実した生活が送れるような地域づくりを進めるという地域福祉の推進が、ますます重要になっています。

横浜市基本構想が展望する2025年は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、福祉保健サービスの担い手から受け手へ移行し、その数が大幅に増大することが予想されています。

地域の状態を見ると、現在は、地域とのつながりを持つ意識の低下や交流の場の減少、地域活動の担い手や後継者不足が課題となっています。

このような状態が続き2025年を迎えた場合、地域におけるさまざまな福祉活動や日ごろの隣近所の支えあいが衰退し、安心して次世代が暮らすことができなくなる可能性があり、西区も例外ではないと思われます。

しかし一方で、西区は、昔ながらの隣近所の温かな人間関係が残る地域でもあり、また区民の中には、今は何らかの理由によりできていないが地域活動へは参加してみたいと考えている人も多いため、地域とそのような人々との「つながり」ができれば、西区の未来を支える大きな力になります。

西区地域福祉保健計画は、2025年以降の西区においても、区民・団体・行政など西区に暮らす全ての人々が力を合わせることで生活課題の解決を図るとともに、地域の力を維持・向上し、誰もがいつまでもにこやかにしあわせにいきいきと暮らし続けることができる西区をつくることを目指しています。

### 3 地域福祉を取り巻く状況の変化

福祉や保健などの様々な生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住みなれたまちで「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らし続けること」を目指した第1期西区地域福祉保健計画の策定から5年が経過し、地域福祉を取り巻く状況は、次のような変化がありました。

#### (1) 福祉制度等の改革

平成18年度に、介護保険法の改正により予防重視型のシステムへ転換が図られました。身近な地域で総合的な相談支援を行う地域包括支援センターの機能を地域ケアプラザ等で担うとともに、地域密着型サービスが創設されました。

また、障害者自立支援法の施行により、身体障害・精神障害といった障害の種別にかかわらずサービス利用の一元化が図られました。

医療制度改革では、療養病床の再編や在宅医療推進の方向性が示されました。

平成20年3月には、厚生労働省の「これからの地域福祉のあり方に関する研究会」が報告書をまとめ、福祉施策における地域福祉の位置づけを明確にするとともに、地域福祉の推進は、地域における「新たな支え合い」（共助）を確立すること、住民が主体となり参加する場であることなどが提示されました。

#### (2) 横浜市の状況

##### ア 少子高齢化の進展【横浜市将来人口推計】

本市においても少子高齢化が着実に進み、人口がピークになる平成32年には、市民の4人に1人が65歳以上の高齢者（25.6%）となり、15歳未満は約1割（10.7%）に減少する見込みです。これ以降、人口は減少に転じ、高齢化はさらに進むと予測されます。

##### イ 世帯構成の変化【横浜市将来人口推計】

非婚・離婚の増加や、仕事・学業などの都合で家族と離れて暮らす人が増え、平成32年には、一人暮らし（単独世帯）が約49万8千世帯に増加（平成17年と比較し約6万2千世帯増加）するとともに、少子化等により夫婦のみの世帯の数も36万5千世帯に増加（平成17年度と比較し約6万6千世帯増加）しています。

##### ウ 深刻な社会経済状況下における生活困難者の増加【国勢調査】

都市部では、職がない若者（平成7年7,178人→平成12年21,678人）や生活保護を必要とする家庭の増加（平成15年29,613世帯→平成20年37,429世帯）、ホームレスやワーキングプアの問題など、個人の責任だけでは解決できない生活困難者の課題が多く見られます。

##### エ 地域の間人関係【平成19年度横浜市市民意識調査】

横浜市民は大都市の希薄な人間関係・近隣関係をそれほど否定的には考えず、程よい距離感を望む市民像（65%）がみられますが、一方で、地域での交流やつきあいを必要と思う市民も多く（77%）なっています。

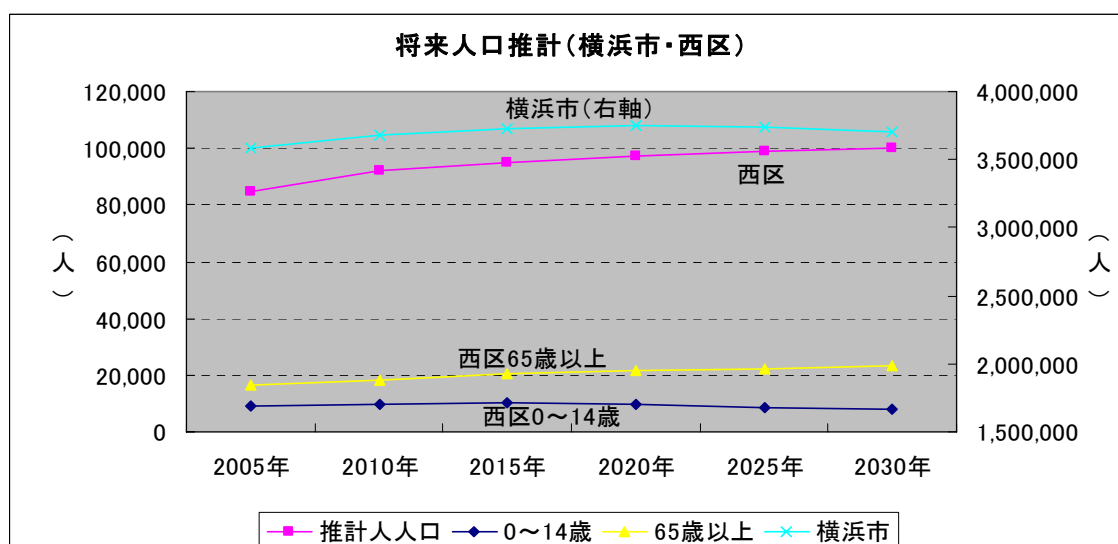
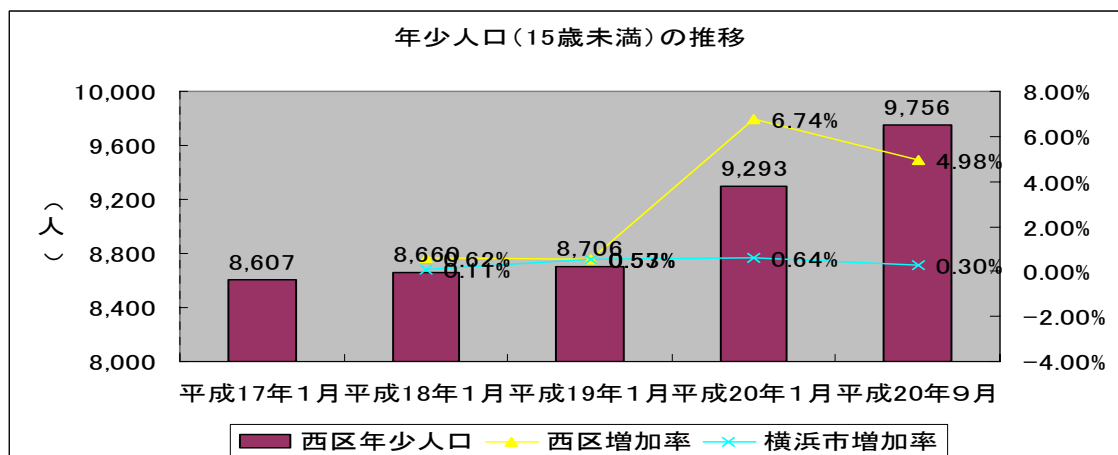
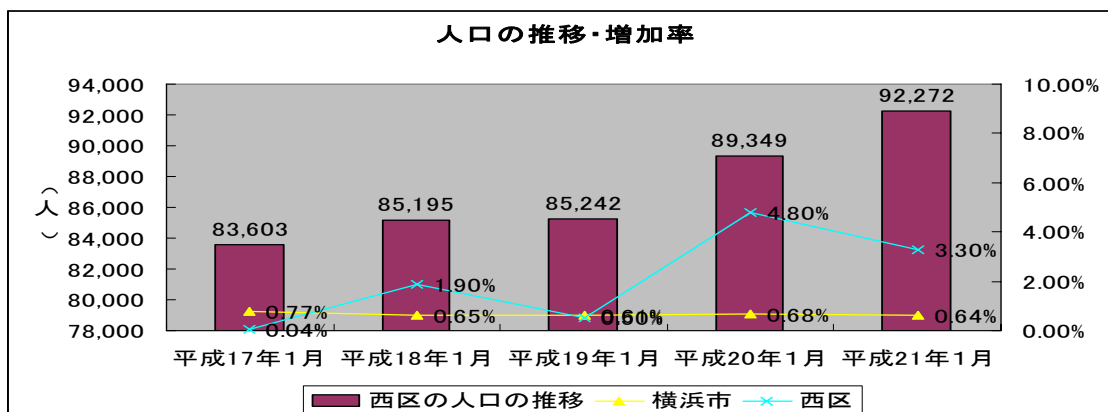
### (3) 西区の状況

#### ア 人口の増加

西区は、横浜市のほぼ中央に位置し、面積 6.98 k m<sup>2</sup>、人口 92,398 人（平成 21 年 3 月現在）で、18 区中最も小さい区です。

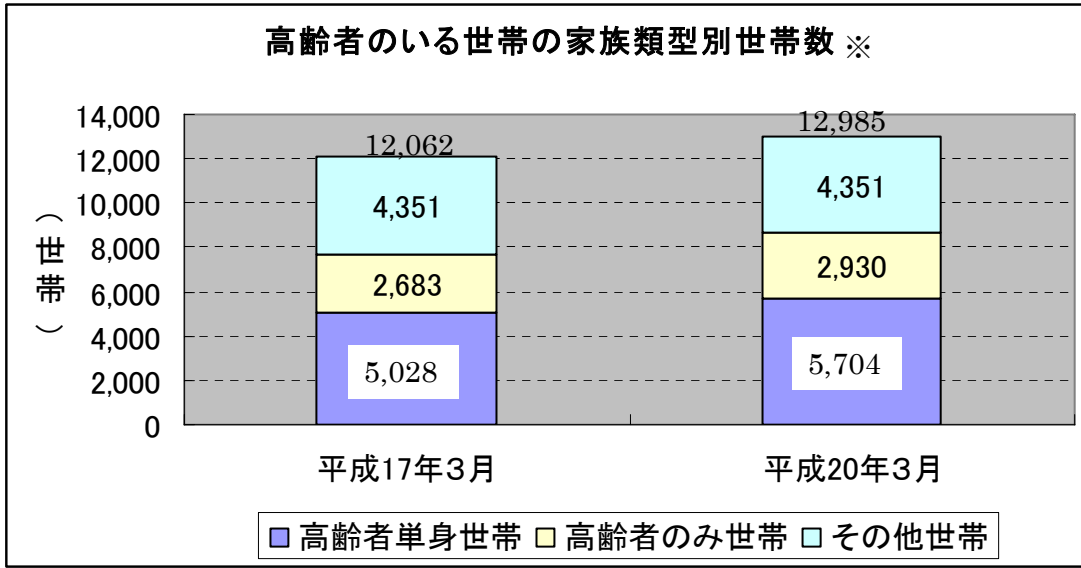
みなとみらい 21 地区を始め横浜駅周辺などの交通至便なところに、マンション開発などが進んだこともあり、平成 9 年度から増加に転じた人口は、平成 20 年 2 月には、33 年ぶりに 9 万人を突破するなど、引き続き高い伸びを示しており、当面この傾向が続きます。

また、近年では特にこどもの数が増加しています。

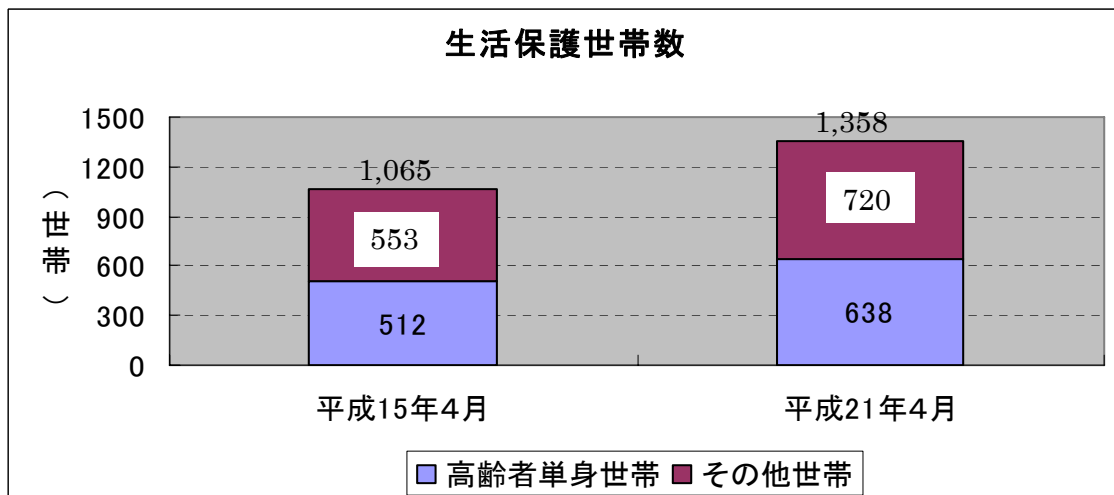
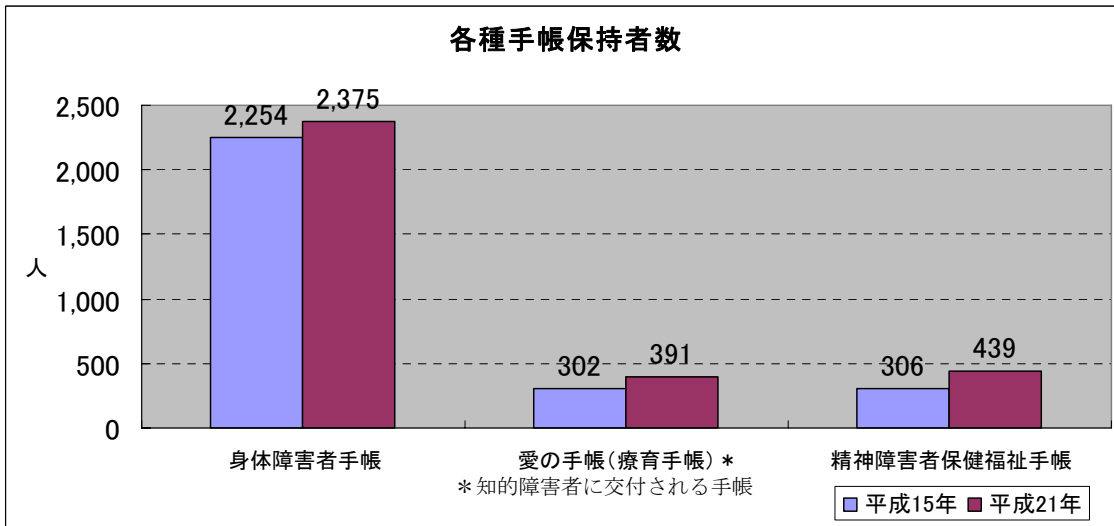


## イ 地域に暮らす要支援者の増加

少子高齢化の進展、医療や福祉制度の改革、社会経済情勢の変化により、地域に暮らす支援を必要とする人（要支援者）が増加しています。



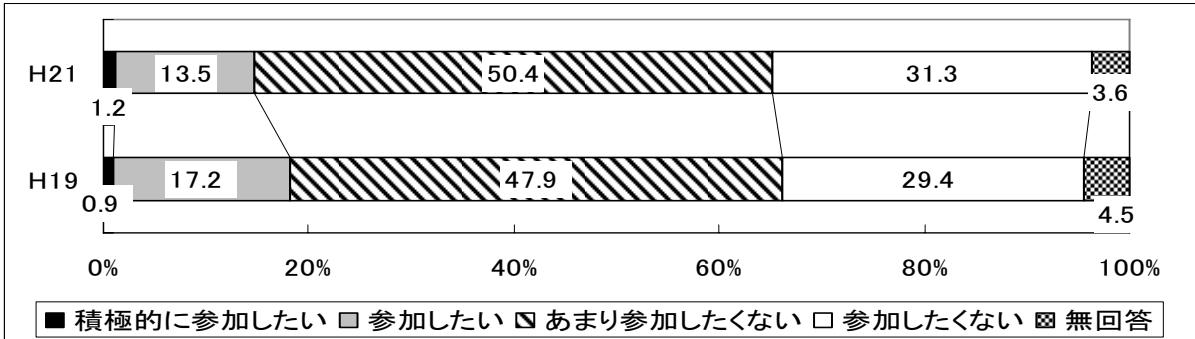
※住民基本台帳上の値（高年齢者単身世帯及び高年齢者のみ世帯には世帯分離世帯を含む）



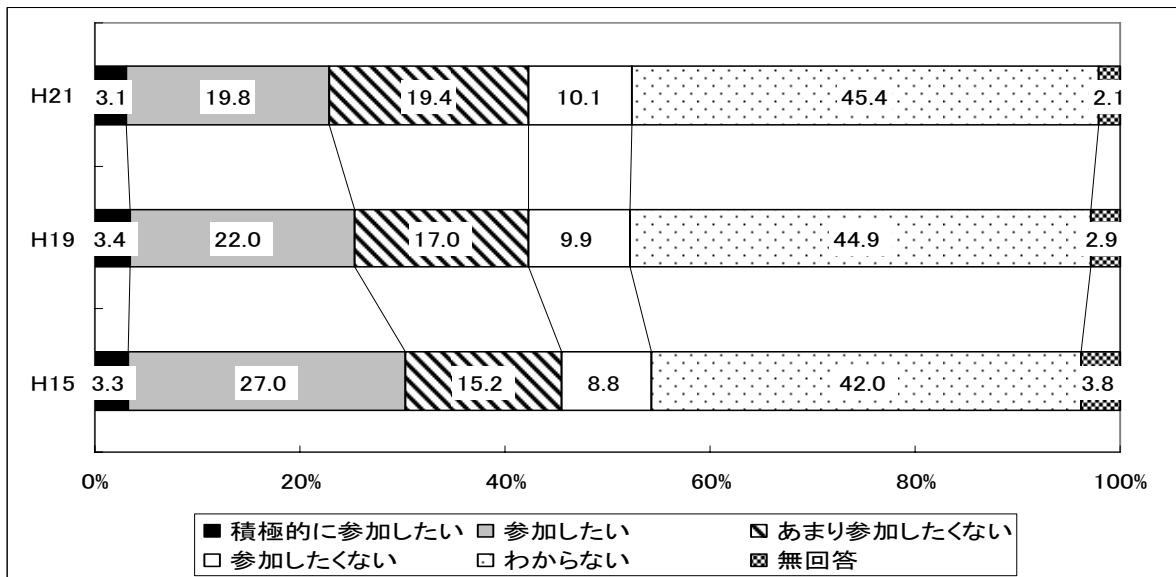
### ウ 地域活動に対する区民意識の変化

区民アンケート（意識調査）では、地域活動への参加、異なる世代や障害児・者との交流など地域とのつながりに対する意欲が減少しています。

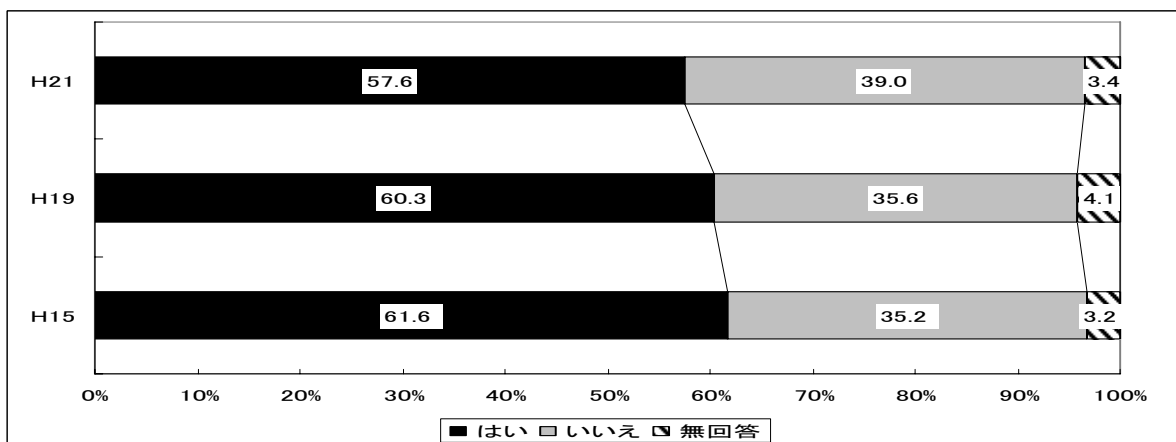
- 自治会・町内会などの活動（役員活動）へ参加したいですか  
 （「これまで参加したことがない」と答えた人に対する質問の回答）



- 障害児・者と共に活動する機会があれば参加したいですか

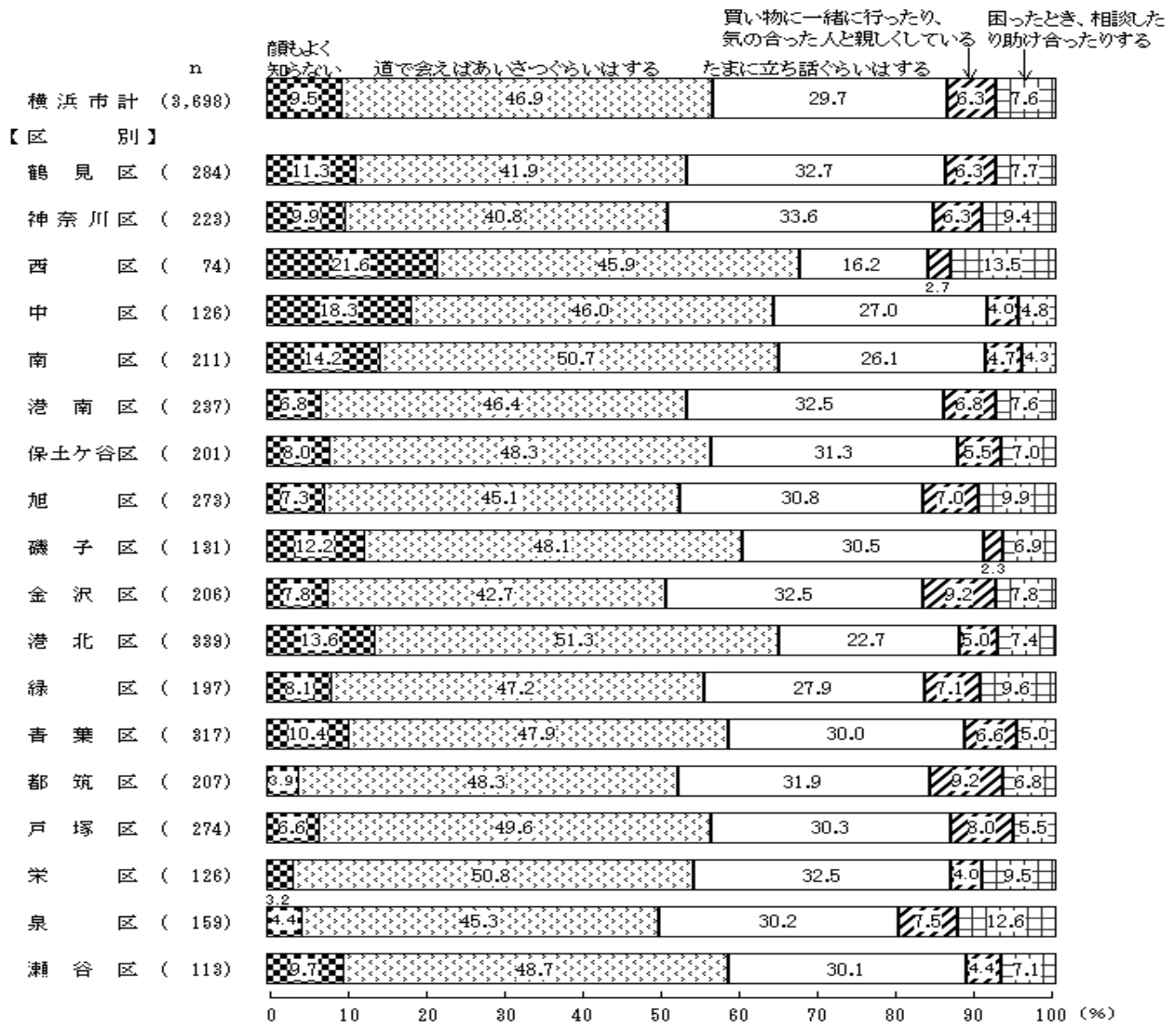


- 困ったことがあったときに近隣の方に助けてもらいたいですか



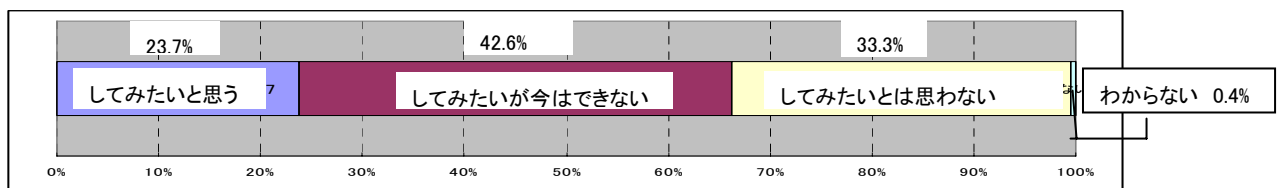
一方、市民意識調査によれば、西区は、隣近所とのつきあい方について、顔もよく知らないという回答した人の割合が18区の中で最も多くなっている反面、困ったとき、相談したり助け合ったりする人の割合も最も多く、昔ながらの隣近所の支えあいや助け合いの関係も残っています。

○ 隣近所とのつきあい方（平成17年度市民意識調査）



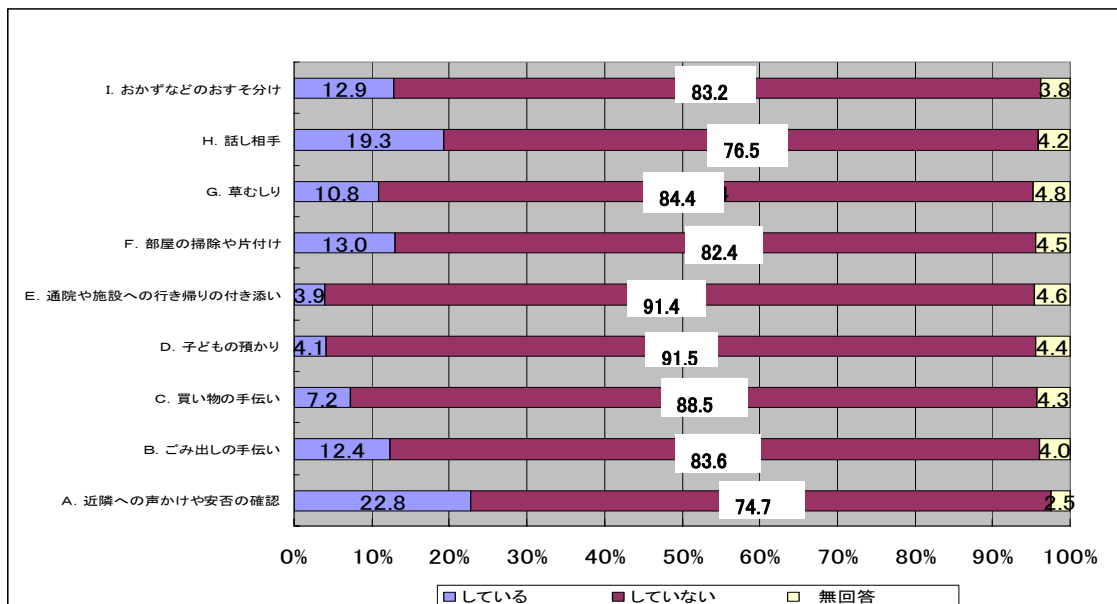
地域活動については、担い手の高齢化や減少、負担の増加などが課題となっていますが、一方で、地域活動へ参加してみたい又はしてみたいが今はできない人が7割近くおり、仕組みやきっかけがあれば、かなりの人が何かしてみたいとの意向があります。

○ 今後の地域活動への参加意向（平成18年度市民意識調査、横浜市）

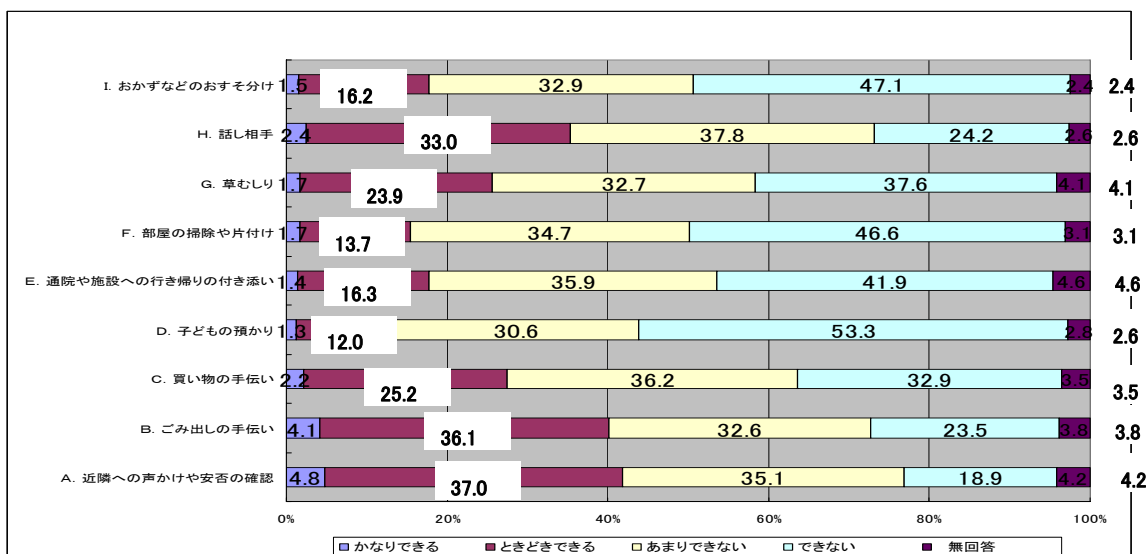


また、西区における区民アンケート（意識調査）でも、現在、地域のさまざまな活動に参加していない人でも、「できる」と考えている人が近隣への声かけ・安否確認やごみ出しの手伝いなど項目によっては4割近くに達しています。

○ 近隣との関係のなかで、ちょっと困っている人がいた場合に、あなたが行っていることがありますか



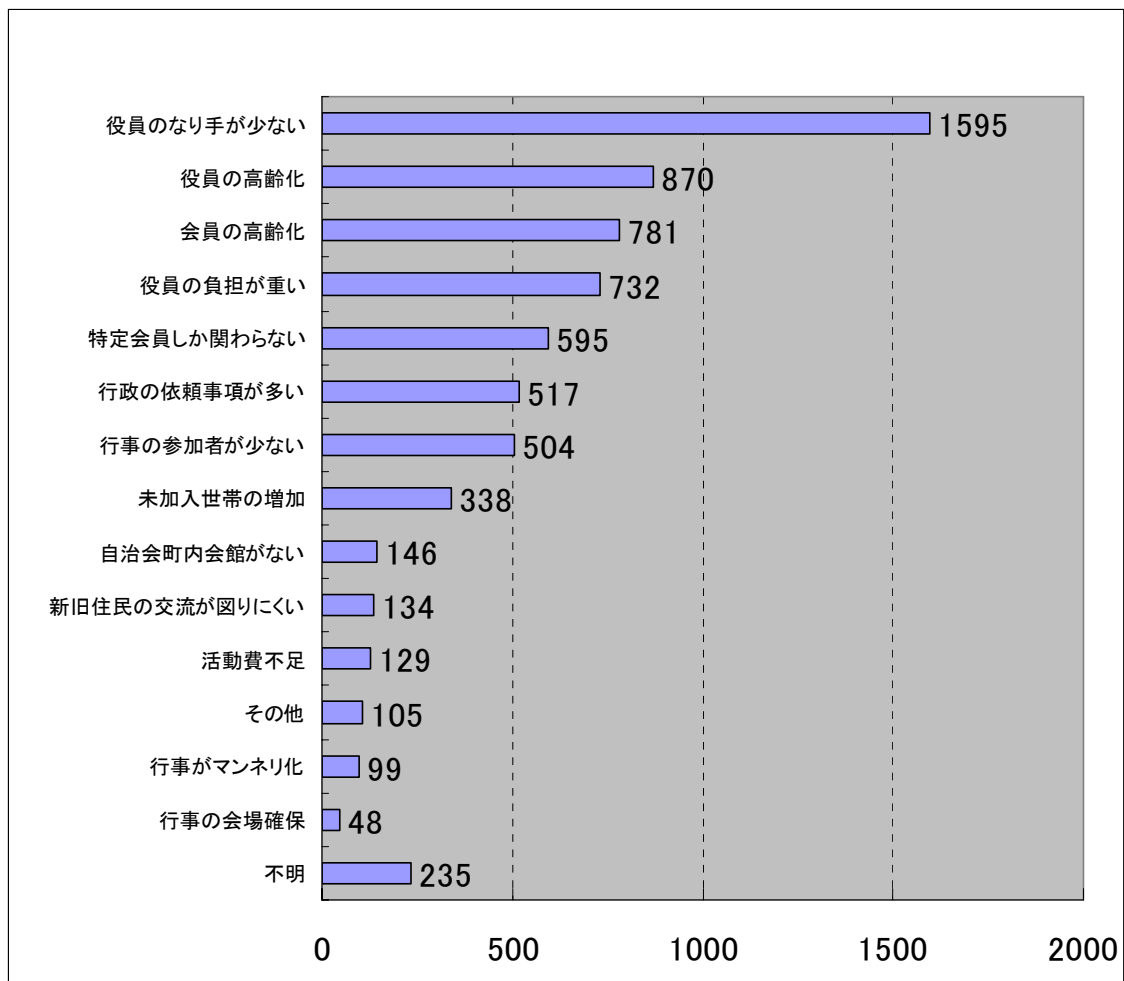
○ 行っていない場合、今後「できること」はありますか





○ 【参考】自治会町内会運営上の課題について（3つまで）

（平成20年度横浜市自治会町内会アンケート調査報告書（抜粋））



エ 地域・課題の多様化 ～地域主体の課題解決の取組が必要に～

西区では、マンション建設等により、人口の増加や人口構成の変化が生じています。

また、住居形態・地形・福祉施設や公園といった利用できる社会資源等が地域により異なり、そこに暮らす人々の生活課題も異なっています。

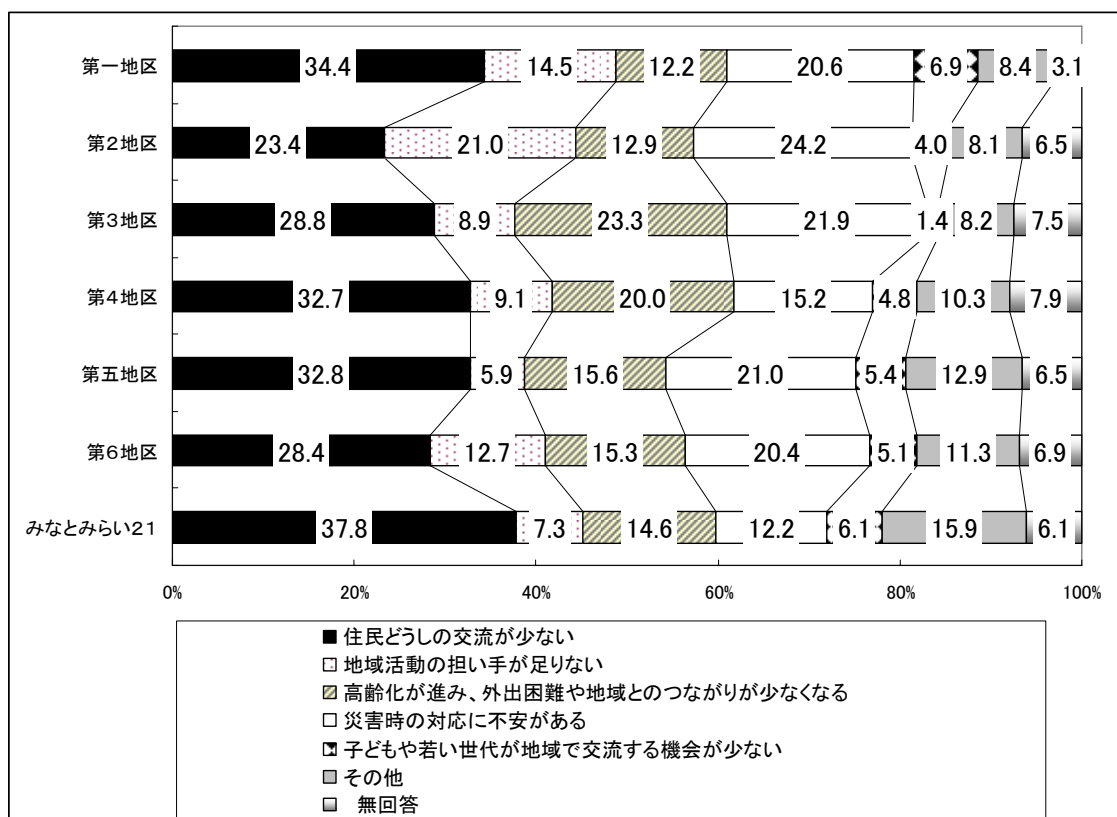
また、地域活動の担い手の減少、住民同士の交流が少ないことは西区の共通の課題ですが、地区により割合に差が生じています。

区内においては、住民が集える拠点が身近に存在していることや地域の見守り活動が活発に行われていること、おまつりがさかんであることといったそれぞれの地域の特性があります。課題の解決に向けては、これらの地域特性をふまえ、地域が主体的に取り組んでいく必要があります。

○ 地域で活動する主な団体の数 (平成20年3月)

組織	総数	1地区	2地区	3地区	4地区	5地区	6地区	みなとみらい21
自治会町内会	100	14	11	16	17	20	21	1
ふれあい会	55	9	10	8	11	8	9	0
子ども会	72	7	10	14	11	13	17	0
老人クラブ	72	12	9	16	14	7	14	0

○ 住みよい地域にするためどのような問題が解決されるとよいと思いますか



#### 4 第1期西区地域福祉保健計画・西区社協福祉プランの振り返り

西区地域福祉保健計画と西区社協福祉プランはともに、地域で福祉のまちづくりを推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担をするものです。

西区においては、第1期においても、同じ目標を掲げ、共同で推進してきました。

##### (1) 西区地域福祉保健計画

###### ア 概要

平成17～21年度を対象とし、福祉や保健などの様々な生活課題に地域全体で取り組む仕組みをつくり、住みなれたまちで「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らし続けること」を目指しました。

- 区民の声を広く集め、一緒に考え、策定しました。
- 区民（個人）、団体、行政のそれぞれの取組を定めました。
- 地域福祉保健推進の指標を設定しました。

###### イ 取組状況

###### (ア) 個人・団体・行政それぞれによる推進

それぞれの取組を通じて区全体を対象として広く推進を図りました。

###### (イ) 地区別懇談会の開催

平成20年度からは、地域の特性や課題に合わせ、きめ細やかな計画推進を目指し、地域住民と区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザがともに地域の課題や解決方法等について話し合う懇談会を各地区で開催しています。

###### ○地区別懇談会について

地域に暮らす人たちが中心となり、身近な地域におけるきめ細やかな福祉保健の推進を図るための話し合いの場です。

また、懇談会を通じて、区全体で推進してきた取組みを、地域特性や課題に合わせ、より身近な地域での取組みへと広げていきます。

【開催単位】 各地区連合町内会（みなとみらい地区は今後実施予定）全7地区

【メンバー】 各地区で町内会やこども、障害、高齢者、防犯などさまざまな分野・団体で活動されている方など（各地区で10～18人）

【支援体制】 区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザは、チームとして話し合いに参加するとともに、懇談会の運営や懇談会の取組みの支援をします。アドバイザーは懇談会の進め方や他地域の取組み等について助言します。

【懇談会で話し合うこと】

- ① 地域の現状を確認します。  
地区の特性、各団体の活動、地域の拠点、社会資源など
- ② 課題を整理し、地域全体の課題を抽出します。  
課題の優先度や重要度などを確認します。
- ③ 地域の目指す姿（目標）に到達できるように、具体的な活動につなげます。

## (2) 西区社協福祉プラン

### ア 概要

西区社協福祉プランは、平成 18～21 年度を対象とし、区の計画と基本理念と基本目標を共有し、区社会福祉協議会や地区社会福祉協議会を構成する団体や機関が、自らの役割や特色を活かして、協働しながら取組むことにより、目標が達成されることを目指しました。

- 地区社会福祉協議会としての取組みを、区社会福祉協議会の会員全体で検討しました。
- 区社会福祉協議会としての取組みを、障がい児者団体や関係機関、ボランティア活動団体、地区社会福祉協議会を中心に検討しました。

### イ 取組状況

地域福祉の推進を目的としている社会福祉協議会は、その事業実施を通じて目標達成に取り組んできました。

#### (7) 区社会福祉協議会による推進

平成 19 年度に区社会福祉協議会の組織を見直し、課題別分科会を設置しました。これにより会員が主体的に参加する仕組みができ、地区社会福祉協議会と施設や、ボランティア・市民活動団体などが、それぞれの活動内容を理解し、テーマに沿った協働の活動を展開しました。

##### ○ボランティア・市民活動分科会

- ・基本目標 3 どの世代も活躍できる場面を持つ  
活動紹介、担い手募集のために活動紹介紙「みらい」を発行

##### ○障がい福祉関係分科会

- ・基本目標 1 安心が確保され安全なまち  
「災害時に支援が必要な人への支援マニュアル」作成
- ・基本目標 3 一人ひとりの個性を認めあい、  
みんなが共存するまち  
障害者週間キャンペーン等の実施による啓発活動の実施

##### ○児童福祉関係分科会

- ・基本目標 5 子どもが健やかに成長できるまち  
「地域での子育て支援」をテーマに研修会を開催

##### ○高齢者福祉関係分科会

- ・基本目標 6 必要な情報が正確に伝わるまち  
身近な地域情報提供のために「高齢者おたすけマップ」を作成

#### (イ) 地区社会福祉協議会による推進

基本目標 4 地域全体がつながりを持つまち

- ・地区内で活動している団体間の交流の場作りに取り組みました。
- ・災害時に支援が必要な人への対応について検討しました。
- ・親子ふれあい会を実施し、地域ぐるみで子育て支援を行いました。
- ・高齢者会食会を実施し、地域全体での見守り活動を行いました。

### (3) 第1期計画の検証と課題

#### ア 検証

第1期計画は西区全域を対象として、地域の身近な福祉保健課題の解決を目指しました。目標達成に向けた団体や行政の取組は第1期の5か年で大きく増加（振り返りシート取組数合計⑰567→⑳942）し、それぞれの活動を通じて、区全体で福祉のまちづくりを進めてきました。

#### イ 課題

##### (ア) 地域が主体となった課題解決の仕組みづくり

人口構成・住居形態・地形・福祉施設や公園といった利用できる社会資源等が地域により異なるため、区全域計画を推進するだけでは、一般論になりがちで、支援が必要な人の課題の解決に結びつく仕組みにつなぐににくいいため、地区の特性・課題に合わせ、きめこまやかにかつ具体的に計画を推進する仕組みが必要です。

##### (イ) 区計画と区社協計画の一体的な推進

西区の区計画と区社協計画は、第1期においても同じ目標を掲げ、区社協計画の取組主体である区社協や地区社協は、区計画の推進にあたって非常に重要な役割を担ってきましたが、2つの計画が別立てであることは区民にとってわかりにくいものとなっていました。

地域福祉保健計画が住民主体で推進される計画であることから、地域に暮らす全ての人々（個人・団体・行政）が力を集結して「誰もがにこやかに、しあわせに、いきいきと暮らしつづけること」を実現するためには、1つの計画として一体的に推進することがなにより必要です。

##### (ウ) 地域ケアプラザの役割の明確化

地域ケアプラザは、誰もが住みなれたまちで、安心して暮らせる地域をつくっていくため拠点であり、西区では、4つの地域ケアプラザが、担当する地域の特性やニーズにあわせ、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービス等を身近な場所で総合的に提供しています。

第1期計画においても、地域ケアプラザは、地域福祉保健計画の推進を念頭において取組を進めており、地域福祉の推進に果たす地域ケアプラザの役割は非常に重要であることから、計画においても明確に位置づけていくことが必要です。

##### (エ) 健康づくりの視点の強化

健康づくりや保健の活動は、自分らしい生活の仕方ができるため心身の状態をつくり、保っていくことを目指しています。

健康づくりや保健の取組としては、公的機関が各種の予防事業や情報提供を行うとともに保健活動推進員や食生活等改善推進員などの地域の保健人材も区域や地域で健康づくり活動を実践してきました。

誰もが関係し、関心の高い「健康づくり」をテーマに、住民の主体性を活かした健康づくり活動を展開することは地域のつながりや活性化にもつながるため、健康づくりの視点を強化していくことが必要です。

(㊦) 社会情勢の変化への対応

一層の少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化等により、地域で暮らす人々の生活課題も多様化・複雑化し、個人の努力や公的な支援だけで対応することは困難です。

多様化・複雑化する生活課題を解決するためには、地域において日ごろから顔の見える関係を築き、

○支援が必要な人を見つけられる仕組み

○支援が必要な人が福祉的サービスへつながる仕組み

○住民同士で助け合い・支えあう仕組み

をつくることがこれからの社会では一層求められています。

## 第2章 第2期西区地域福祉保健計画の概要

### 1 基本的な考え方

#### (1) 第1期計画を継承する

幅広く多くの区民の声を集めて定めた第1期西区地域福祉保健計画は、計画期間5か年で完結するものではなく、だれもが住みやすい西区を目指すうえで、普遍的・永続的な計画となっています。

そのため、引き続き第2期計画でも第1期計画の基本理念や6つの基本目標を継承したうえで、社会の変化等を踏まえた見直しを行い、第2期計画とします

「定年」部分を再検討します

#### 【基本理念】

西区に住む私たちは健康で楽しく豊かな生活を送ります。地域での生活に定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。

#### 【基本目標】

- 1 安全が確保され、安心なまち
- 2 活気にあふれ、健康なまち
- 3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち
- 4 地域全体がつながりを持つまち
- 5 子どもが健やかに成長できるまち
- 6 必要な情報が正確に伝わるまち

### 2 推進の柱

第2期計画では、横浜市の都市づくりの方向性、地域福祉を取り巻く状況の変化及び第1期計画の振り返りを踏まえ、次の3点を<推進の柱>とします。

#### <推進の柱1>地域のつながり・新たな地域福祉の担い手を広げていきます

- ・一人ひとりと地域とのつながりを強化するための取組
- ・新たに地域の福祉保健活動に参加する人を増やすための取組

#### <推進の柱2>具体的な地域の課題解決の仕組みをつくります

- ・地区別計画の策定・推進
- ・地域・団体・行政の協働による取組

#### <推進の柱3>支援が必要な人を地域で支える仕組みをつくります

- ・地域におけるセーフティネットづくり
- ・地域と専門機関のネットワーク構築

### 3 策定の方向性

#### ○ 重点的に取り組むこと（重点推進目標）を定めます（第3章）

第1期計画の基本理念や基本目標を継承したうえで、<推進の柱1>地域のつながり・新たな担い手を広げる・<推進の柱3>支援が必要な人を地域で支える仕組みをつくるに沿って、小目標の中から、重点的に取り組む項目（重点推進目標）を定め、重点推進目標を達成するための取組について計画最終年度（6年後）の目標値を定めます。

第1期計画で福祉保健推進の目標値（区民アンケートにより把握する区民の意識や取組状況の値）は、第2期でも引き続き計画全体の推進を図る指標とします。

#### ○ 新たに地区別計画を策定します（第4章）

<推進の柱2>具体的な地域の課題解決の仕組みをつくるため、区全域計画に加え各地区の課題解決に向けた取組を地区ごとの計画としてまとめます。

地域と区役所等がともに力をあわせ、地区別計画を推進し、具体的な地域の課題解決に結び付けていきます。

#### ○ 区計画と区社協計画と一体的に策定するとともに、地域ケアプラザの取組を位置づけます（第3章・第4章）

区計画と区社協計画を一体化した計画するとともに、地域ケアプラザも合わせ、区・区社協・地域ケアプラザは協働で計画を推進するため、基本目標ごとに、3者の取組を定めます。

### 4 計画の期間

#### ○ 計画期間を6か年とします。

平成22年度～27年度の6か年を計画期間とします。

### 5 計画の根拠と位置づけ

市町村の地域福祉計画策定は、平成12年に社会福祉法で定められました。

横浜市においては、地域の生活課題を十分に反映させるため、区ごとに「地域福祉計画」を策定し、市レベルでは区計画を支援するための計画を策定し、推進しています。

### 6 策定過程

- (1) 策定委員会開催策定委員会  
(検討経過を掲載)





# 基本理念と基本目標

## 基本理念

西区に住む私たちは、健康で楽しく豊かな生活をおくれます。地域での生活には定年はありません。自分たちでできることは自分たちで考え、人々がつながり、地域に根を張り、その枝葉を伸ばしていきます。

1  
安全が確保され、  
安心なまち

2  
活気にあふれ、  
健康なまち

3  
一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

## 基本目標 西区のめざす姿

4  
地域全体がつながりを持つまち

5  
子どもが健やかに成長できるまち

6  
必要な情報が正確に伝わるまち

中高年

サポートを必要とする人

高齢者

子ども

西区のめざす姿を担う人たち

若い人

～それぞれの世代が、共通したテーマで集まり  
つながりあうことで、基本目標が実現されます～

(※5)

各基本目標の1ページ目から集約



## 福祉保健推進の目標値

地域福祉保健の推進が計画の最終年次である6年後にどの程度図られたのかを把握し、判断するため、「福祉保健推進の目標値」を設定しました。目標値が達成されると、西区のめざす姿の実現に近づきます。基本理念の指標である「今後も西区に住み続けたい」と思う人が増えるよう取組を進めます。

目標	項目	平成15年度	平成21年度	6年後の目標値
基本理念	今後も西区に住み続けたい	56.5%	57.7%	90%
1	西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う	38.1%	56.7%	60%
1	ごみ出しのルールを必ず守る	75.9%	74.8%	100%
1	ポイ捨てをしないというルールを必ず守る	71.3%	78.9%	100%
1	公共の乗り物でのマナーを必ず守る	44.3%	41.0%	100%
1	駐輪・駐車を守る	63.4%	72.2%	80%
1	ルールを守らない人を見かけたときに注意することができる	22.0%	23.0%	35%
2	自分が健康だと感じている	77.9%	79.8%	80%
2	過去1年の間に健康診断を受けた	70.4%	70.4%	80%
2	健康診断などの結果、生活習慣病が特でない	39.7%	45.7%	50%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの医師がいる	55.0%	54.5%	90%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの歯科医師がいる	53.1%	53.0%	90%
2	体調が悪くなったときに、相談できるかかりつけの薬剤師がいる	17.8%	21.4%	30%
2	健康を維持するのに必要な身体を動かすことに既に取組んでいる	35.8%	34.4%	40%
2	健康を維持するために食生活の改善に既に取り組んでいる	47.6%	51.4%	80%
2	家族以外で自分の世代とは違った人と共に活動する機会があった	38.0%	40.1%	70%
2	自分の世代とは違った人と共に活動する機会があれば参加したい	39.4%	36.9%	60%
3	障害者(児)と共に活動を行う機会があった	17.1%	16.0%	30%
3	障害者(児)と共に活動する機会があれば参加したい	30.3%	22.9%	50%
3	ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や近くの友人がいる	53.9%	49.3%	80%
5	地域で未成年の喫煙をほとんど見かけない	11.1%	27.9%	100%
5	近隣の子どもにあいさつなどの声をかけることがある	57.0%	57.9%	90%
5	近隣の子どもに注意することができる	60.1%	56.4%	90%
6	西区からのお知らせや催し物の情報をホームページから得る	2.4%	4.0%	10%



## 第2期計画の重点推進目標

第2期計画では、第1期計画の評価を踏まえ（P.32～）、各基本目標の小目標の中から、重点的に取組を進める「重点推進目標」を定めます。「重点推進目標」の実現に向けて、個人、団体、行政、区社会福祉協議会、地域ケアプラザが取組を進める指標として、6年後の目標値を新たに定め、共に推進をしていきます。

### 基本目標1 安全が確保され、安心なまち

#### 小 目 標

- ①地域全体でサポートを必要とする人を見守る
- ②近隣の人と顔見知りになる
- ③地域で助け合う関係を築く
- ④マナーやルールを守り、お互いの信頼関係を深める

**(※4)**  
重点推進目標、6年後の目標値を前ページに移動

**(※7)**  
「福祉保健推進の目標値」より変更

～第2期計画の重点推進目標～

地域で助け合う関係を築く

**(★1)**  
指標の柱立ては適切か

6年後の目標値

- ◆ふれあい会、友愛チーム等の見守りの団体数を増やします。 団体数 127→135 団体
- ◆防災訓練への参加者数を増やします。  
地域防災拠点訓練参加者： 平成20年度 (3,857人) → ( )
- ◆防犯に関する講座、イベントの実施回数を増やします。  
( ) → ( )

**(★2)**  
重点推進目標と一致しているか

### 目標達成への方向性

西区では、子どもの登下校時の見守り、ひとり暮らし高齢者等の見守り活動など地域の支えあいの取組が活発に行われています。また、第1期計画の5年間では、地域の防犯パトロールも団体どうしが連携した取組みが広がっていますが、一方で区民アンケートでは、防犯面や災害時の対応が不安との意見が多くあります。

第2期計画では、災害時に支援を必要とする人の把握や支援の仕組みづくりを通して、お互いのことを知り合い、日ごろから地域で助けあう関係を築き、安全で安心な暮らしを実感できるまちを目指します。

目標達成に向けた取組

(※8)  
それぞれの取組を共通のカテゴリに分類

個人	<p>ふれあい会、友愛チーム等見守りの団体数を増やします。</p> <p>近隣の人と顔見知りになり、日常生活での支援が必要になった時に見守りあう関係を築きます。</p>	<p>防災訓練への参加者数を増やします。</p> <p>地域の防災訓練に参加し、災害時の対応への意識を高めます。</p>	<p>防犯に関する講座、イベントの実施回数を増やします。</p> <p>危険から身を守る手段を学び、地域で行われている防犯活動に関心を持ちます。</p>
団体	<p>ひとり暮らし高齢者等の見守りについて、周囲に働きかけ、共に活動できる人を増やします。</p> <p>【ふれあい会、友愛チーム、民生委員・児童委員、ともしび、みつわの会、ほっと幸せ会、赤い靴…】</p>	<p>防災訓練への参加者が増えるよう、団体どうしが連携し、参加を促します。</p> <p>【町内会・自治会、災害ボランティアネットワーク、障害者団体…】</p>	<p>防犯に関する意識を高めた地域での防犯への取組を増やします。</p> <p>【PTA、町内会・自治会、警察、西口振興協議会】</p>
行政	<p>団体間のネットワークを構築し、見守り体制を強化します。</p> <p>判断能力が不十分で虐待されているなど自ら声をあげられない人の権利擁護に取り組めます。</p>	<p>災害時の要援護者の把握を支援します。</p>	<p>防犯に関する講座やイベントなどの実施により防犯への関心を高め、地域での防犯に関する取組を支援します。</p>
区社会福祉協議会	<p>見守り活動を行う団体への支援を行うとともに、新たな担い手向けの研修・講座等を行います。</p>	<p>災害ボランティアネットワークの拡充を推進します。サポートが必要な人が地域の防災訓練に参加できるような情報提供を行っていきます。</p>	<p>ひとり暮らし高齢者等を狙った犯罪を防止するための取り組みを支援します。</p>
地域ケアプラザ	<p>孤立している高齢者等に対し、区役所と連携して支援し、地域とつなげていきます。</p>	<p>施設内で防災訓練や避難訓練を行います。</p> <p>地域の防災訓練にも参加し、災害時への備えを行います。</p>	<p>悪徳商法やオレオレ詐欺などひとり暮らし高齢者を狙った犯罪防止のための講座を実施します。</p>

(※9)  
団体名を記載  
(掲載団体名は調整中)

(※3)

小目標②③④は基本目標4へ移行

## 基本目標2 活気にあふれ、健康なまち

### 小目標

- ① 自分が健康であるために、健康の意識を高める

～第2期計画の重点推進目標～

自分が健康であるために、健康の意識を高める

### 6年後の目標値

- ◆がん検診・健康診断の受診率を上げます。 がん検診：各検診受診者 500名増
- ◆ウォーキングへの取組を増やします。 各地区年5回開催
- ◆食習慣の改善に取り組む人を増やします。 区民アンケート調査 (80%)
- ◆介護予防講座への参加者数を増やします。 現在の1.5倍

### 目標達成への方向性

健康は、個人の問題ととらえられがちですが、地域生活の視点で住民がともに健康を考え、共通の課題や対応策を検討することで、幅広い取組みや支援を具体化することができます。

第1期計画では、健康維持への関心の高まりともあわせ、介護予防のための体操、ウォーキングや講座など、様々な人が参加して地域で一緒に活動する健康づくりの取組がすすめられました。

第2期計画では、より多くの人に関心を持ち、楽しんで参加できる取組みを実施し、新たに地域活動に参加する区民を増やすとともに、健康づくり活動の場を住民相互の交流・人間関係づくりを進める場にします。

目標達成に向けた取組

	がん検診・健康診断の受診率を上げます。	ウォーキングへの取組を増やします。	食習慣の改善に取り組む人を増やします。	介護予防講座への参加者数を増やします。
個人	定期的に健康診断を受け、健康への意識を高めます。	食生活の改善や運動など仲間と一緒に考え、楽しく参加する機会を増やします。		健康への意識を高め、心身の機能を維持することを心がけます。
団体	身近な地域で、検診・健診に関心をもってもらえるよう働きかける機会を増やします。 【医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健活動推進員】	ウォーキング等運動習慣を身につける機会を提供します。 【保健活動推進員、体育指導委員、青少年指導員】	食の安全を学ぶ機会を増やし、食生活を中心とした健康づくりに取り組む人が増えるよう支援します。 【食生活等改善推進員、食品衛生協会】	元気なうちから健康づくりへの関心を持ち、介護予防の取組に参加する人を増やします。 【シルバー体操指導員、デイサービス事業者】
行政	健康への意識を高め、がん検診の受診率を上げます。	運動習慣を身につける機会を提供する団体を支援します。	食を通じての健康づくりを推進し、食育活動を提供する団体を支援します。	介護予防への取組を支援します。
区社会福祉協議会				会食会や高齢者サロンなど、居場所づくりをすすめます。
地域ケアプラザ	地域住民に健康づくりに関する啓発を行います。	地域での行事等で介護予防体操等を紹介し、普段から健康維持に努められよう働きかけます。	男性の料理教室や子育て支援の事業等を通じて、幅広い世代に食の大切さを伝えます。	介護予防講座を実施し、いきいきと地域で生活できるよう支援します。

### 基本目標3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

#### 小目標

- ① 地域と接点を持つ
- ② 自分からも気持ちを伝える
- ③ サポートを必要とする人をありのままに受け入れる姿勢を持ち、支援をする
- ④ 障害児は、いろいろな人といろいろなところ（場面）で多くの体験をする

～第2期計画の重点推進目標～

サポートを必要とする人をありのままに受け入れる

姿勢を持ち、支援をする

#### 6年後の目標値

- ◆サポートが必要な人についての啓発講座への参加者や共に活動できる場（イベント、町内会活動、小中学校での活動等）を増やします。現在の1.5倍
- ◆作業所や自主活動グループ、団体等の活動を広く紹介します。（広報紙の発行、ちらし作成、ホームページに掲載）現在の1.5倍

#### 目標達成への方向性

障害の種別に関わらず一元的に福祉サービスを利用できる仕組みとして障害者自立支援法が制定され、西区では、（法人型の）障害者地域活動ホームや精神障害者生活支援センターが開所するなど、近年、障害児者が地域で生活するための基盤整備が進みました。

第2期計画では、地域の拠点を中心に地域とのつながりづくり、関係づくりを進めます。

また、障害児者を初めとしたサポートを必要とする人が、自らの活動や気持ちを発信し、地域に溶け込み、いきいきと暮らし続けることができるようなしくみづくりに取り組みます。

# 目標達成に向けた取組

	共に活動する	関係団体の連携	自ら伝える	互いの理解を深める
個人	サポートが必要な人についての啓発講座への参加者や共に活動できる場を増やします。		作業所や自主活動グループ、団体等の活動を広く紹介します。	
個人	近隣でサポートが必要な人に声をかけ、安否確認や話し合い相手、ごみ出しの手伝いなど自分ができることを手伝います。		サポートが必要な人が自分から気持ちや状況を伝えます。	認知症への理解を深め、身近な地域で生活できるよう支援します。
団体	町内会活動、行事、イベント等を行う時にサポートが必要な人に声をかけ、共に活動します。 【町内会・自治会、小学校・中学校…】	障害者団体、作業所、グループホーム、民生委員児童委員等関係機関は課題等を話し合い、連携して共に活動を進めます。 【自立支援協議会・障害福祉関係分科会…】	障害者団体は自分達の活動状況を発信します。 【みらい工房西…】	認知症への理解を深め、見守る人を増やします。 【キャラバンメイト…】
行政	障害理解のための啓発講座を開催し、共に活動する機会を増やす支援をします。	障害者団体、作業所、グループホーム等関係機関のネットワークをつくる自立支援協議会を支援します。	障害者当事者グループ、作業所の活動を紹介し、活動の活性化を支援します。	事業所や関係機関と連携し、認知症の方を地域で支える体制づくりに取り組みます。
区社会福祉協議会	当事者団体等が主体となって行う「共に活動する機会づくり」を支援します。	自立支援協議会に参加し、関係機関との連携を推進します。当事者団体のネットワーク化を一層推進します。	当事者団体が、自らの活動を伝えるための発信力を高めるよう支援していきます。	障がいのある人や認知症のある人等サポートを必要とする人に対し理解を深めるため、研修会・講座等を開催し啓発に努めます。
地域ケアプラザ	作業所や障害者団体と連携し、地域との交流の機会をつくりまします。	自立支援協議会に参加し、支援の輪を広げていきます。	ケアプラザまつりや行事等で作業所の製品を紹介したり、事業の中で日頃の活動を伝える機会をつくりまします。	認知症の理解を深める研修会を実施し、地域でサポートできるキャラバンメイトを広げていきます。



## 基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

(※3)

小目標②③④は基本目標から移行

### 小目標

#### 【団体どうしが連携する】

- ① 自分たちの活動を見つめなおす
- ② 関係する団体どうしの連携を図る
- ③ ~~より広範囲でのつながりを持つ (要検討)~~

#### 【地域活動に参加する】

- ④ 共に地域をつくる姿勢を持つ
- ⑤ どの世代も活躍できる場面を持つ
- ⑥ ~~素直な気持ちで大とつながる (要検討)~~

～第2期計画の重点推進目標～

(I) 関係する団体どうしの連携を図る

(II) どの世代も活躍できる場面を持つ

### 6年後の目標値

- ◆連絡会や講座、行事等に新たな団体と共に取組みます。 1団体1つ以上
- ◆学生、子育て世代、団塊の世代、高齢者等対象者に合わせて、活動に関心を持ってもらう講座や行事を増やします。 現在の1.5倍

### 目標達成への方向性

(I) 第1期計画の5年間では、地域の福祉保健を推進する団体の取組数が増加するとともに、特定のテーマに沿って活動するNPO等の団体も増えてきています。

一方で、同様の取組を同じ時期に複数の団体が行っていたり、構成員の減少や高齢化が進むなど、担い手不足が大きな課題となっています。

第2期計画では、関係する団体同士がお互いを知り、個性を認め合いながらゆるやかにつながり、協力することで、担い手一人ひとりの負担軽減を図り、地域の福祉保健を一層推進します。

(II) 自治会町内会やボランティアグループでは、活動を支える担い手不足や次の担い手育成が大きな課題となっています。

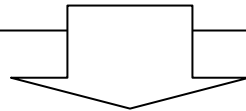
退職期を迎えた団塊の世代や中間層など幅広い世代の区民が、自治会町内会やボランティアなどさまざまな場面・分野、地域づくりに参加でき、活躍できるしくみづくりを推進します。



## 基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

### 小目標

- ① 自分のからだを大切にする
- ② 良いこと、悪いことの判断力を身につける
- ③ 周りの大人は、子どもを気にかけて、声かけや見守りをする
- ④ **子どもは自分やみんなの子どもとしてみんなで育てる**



～第2期計画の重点推進目標～

**子どもは自分やみんなの子どもとしてみんなで育てる**

### 6年後の目標値

- ◆地域と子どもが交流する機会を増やします。
- ◆地域と学校、幼稚園、保育園の交流の機会を広げます。 現在の1.5倍

### 目標達成への方向性

第1期計画の5年間で、西区の0～6歳の子ども数が大きく増加し、区民の子育て支援へのニーズは高まっています。

地域では、親子のふれあいや交流の場の提供、子育て情報の発信などが各団体・行政により行われています。

第2期計画では、子どもが幼い頃から地域との関わり方を学び、自分が周囲の大人から見守られていると感じ、心豊かに健やかに成長できるまちを目指します。

また、西区地域子育て支援拠点を中心に子育てに関する取組を行う団体がネットワークをつくり、子育て中の親の頑張りを地域で支えます。

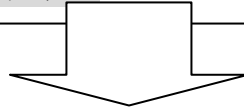
# 目標達成に向けた取組

		地域と子どもが交流する機会を増やします。		地域と学校、幼稚園、保育園の交流の機会を広げます。	
		子どもを見守る	健全な心の育成	団体の連携	相談できる場を増やす
個人	<p>幼少の頃から地域の行事に参加し、近隣の人と顔見知りの関係を築きます。</p>	<p>大人から声をかけ、見守ることで、子どもは自分が大切にされていると感じ、思いやりを学びます。</p>			
団体	<p>地域で子どもを見守る大人が増えるよう働きかけ、地域と子どもをつなぎます。 【PTA、主任児童委員 …】</p>	<p>様々な体験を通じて、社会のマナーやルールを学び、豊かな心を育む機会をつくります。 【                   】</p>	<p>各地区で行われている子育て支援の取組が広がるよう互いに協力し合います。 【児童福祉関係分科会                   】</p>	<p>子育ての悩みを受け止め、子育て世代が孤立することのないよう支援します。 【幼稚園、保育園 …】</p>	
行政	<p>赤ちゃんの時から地域とのつながるきっかけづくりを支援します。 (こんにちは赤ちゃん事業)</p>	<p>学校と連携し、命の大切さを学ぶ機会を増やします。 (小学生～中学生)</p>	<p>西区地域子育て支援拠点を中心とした団体のネットワークづくりに取組ます。</p>	<p>身近な子育て支援の場として、保育園の機能を強化します。 (未就学児)</p>	
区社会福祉協議会	<p>地域ぐるみで子育てを支援する関係を作っていきます。 (親子ふれあい会)</p>	<p>生徒を対象とした福祉教育の中で、福祉についての理解を深めていきます。</p>	<p>子育て支援拠点とともに関係施設・団体と連携し支援の輪を広げます。</p>	<p>子育てに関する情報提供や関係機関との連携を深めます。</p>	
地域ケアプラザ	<p>デイサービス等の地域の利用者と子どもが交流できる場を提供します。</p>	<p>小中学生の福祉体験の場を提供し、地域とつながるきっかけをつくります。</p>		<p>親子支援の講座や事業を実施し、子育てに関する情報提供や楽しく活動できる場をつくります。</p>	

## 基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

### 小 目 標

- ① 地域の活動、行政の情報がいろいろな手段で伝わる
- ② 自分自身に必要な情報を選択する



～第2期計画の重点推進目標～

自分自身に必要な情報を選択する

### 6年後の目標値

- ◆地区別、対象者別、年代別に情報をわかりやすく提供します。
- ◆インターネットに情報を掲載する団体数を増やします。
- ◆身近に情報を入手できる施設や拠点があることを伝えます。 ( ) 団体増

### 目標達成への方向性

第1期計画の5年間で、インターネットを利用する区民は増えていますが、広報紙・掲示板も情報を得る手段として多くの区民に利用されています。また、顔見知りの人から聞く口コミ情報も情報を得る重要な手段です。

一方で、様々な媒体から様々なレベルの情報が数多く提供されている状況です。

自分の地域で行われている活動について知り、参加するきっかけとしていくこと、支援を求めたいときにその情報を得ることができることなど、一人ひとりが必要とする正確な情報を手に入れることができるための工夫が必要です。

第2期計画では、区民が自分自身に必要な情報を選択できるよう、情報を整理し、わかりやすく伝える取組みを進めます。

# 目標達成に向けた取組

個人	<p>地区別、対象者別、年代別に情報をわかりやすく提供します。</p> <p>情報を入手しにくい高齢者等には、自分が知っている情報を伝えます。</p>	<p>インターネットに情報を掲載する団体数を増やします。更新し、正確な情報を伝えます。</p>	<p>身近に情報を入手できる施設や拠点があることを伝えます。</p> <p>情報がどこに集まっているのか、日頃から関心を持ち、家族や身近な人に伝えます。</p>
団体	<p>情報の受け手側にあわせた情報発信の方法を工夫します。 (掲示板、回覧板、ちらし、ホームページ等)</p> <p>【シャーロックホームズ…】</p>	<p>地域情報をおとしたマップや情報カレンダーなどは随時更新をし、タイムリーな情報を伝えます。</p> <p>【e ネットにし探検隊、第6地区子育て分科会、子育てプロジェクト、にじ…】</p>	<p>子育て支援、健康づくりに関すること、介護に関すること等、団体が把握している情報を伝えるとともに、区役所や地域ケアプラザ、福祉保健活動拠点、地区センター等入手できる場所を紹介します。</p> <p>【           】</p>
行政	<p>広報、ホームページ、ちらし等手段を変えて、必要な人に情報が届くよう工夫します。また、情報を発信したい団体と発信手段を持っている団体をつなげるしくみをつくります。</p>	<p>地域のイベント情報や区役所の事業等、広報よこはま区版やホームページでタイムリーな情報を伝えます。</p>	<p>身近な地域で情報が得られる施設や拠点があることを窓口や広報等を通じて広く伝えます。</p>
区社会福祉協議会	<p>収集した情報を整理し発信します。情報の入手が困難な人にも受け取りやすい工夫をして発信します。地域の団体等の情報発信を支援します。</p>	<p>広報紙「もくせい」やボランティア情報紙、チラシ、区社協ホームページなど、さまざまな媒体をつかって情報を発信していきます。</p>	<p>他機関からの情報を整備し提供します あわせて、身近な地域で情報が得られる拠点あることを広く伝えます。</p>
地域ケアプラザ	<p>対象者に合わせて、地域へ出向いて情報を伝えたり、掲示板を活用する等、情報発信の方法を工夫します。</p>	<p>広報紙の発行、ホームページの更新により地域に情報を発信します。</p>	<p>情報発信をする団体の後方支援を行い、インターネット、パソコン等を学ぶ場を提供します。</p>



## 第 1 期 計 画 の 振 り 返 り

### 基本目標 1 安全が確保され、安心なまち

(※6)

各基本目標の最終ページより集約

#### ～個人の取組～

##### アンケート結果まとめ

「西区は治安が良く、安全が確保されたまちだと思う」と回答した人の割合が 56.7%と平成 15 年度に比べると 18.6 ポイント増加しました。

「公共の乗り物でのマナーを守る」と回答した人の割合が平成 15 年から 3.3 ポイント減少しているほか、「ごみ出しのルールを守る」「ポイ捨てをしないというルールを守る」も目標達成まで 20 ポイント以上の開きがあります。

##### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 住宅密集地に住んでおり、地震が起きた時の逃げ場がなく、不安を感じている高齢者が多い。
- ・ 路地が狭く、救急車が入れないところもあり、防災面で注意しなければならないところがある。
- ・ 横浜駅周辺では人の出入りが多く、防犯面で心配。
- ・ 個人情報の問題があり、高齢者などの把握が困難になっている。

##### 区民からよせられたアイデア

○知らない人どうしてもあいさつができれば、防犯性も高まり、何かあった時も話しやすくなる。

○まず、顔見知りになり、はじめてコミュニケーションがとれる。

#### ～団体・行政の取組～

##### 目標 1 に対する取組数

	【平成 17 年度】	→	【平成 20 年度】
<u>86 件増</u>	160 件		246 件

##### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【町内会】地域の防犯パトロールを強化

【子ども会】集団下校時のあいさつ運動（各単位会）を実施

【老人クラブ】友愛活動で高齢者の見守り

【ふれあい会】見守られる人と見守る人との輪ができ、町内会活動の活発化につながりました。

【区役所】「こども 110 番の家」の登録数年々増えています。また、学校との交流会を 5 校で実施しました。

【区社会福祉協議会】（障害福祉関係分科会）自分たちや地域ができることについて話し合い、「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」を作成しました。災害ボランティアネットワークを立ち上げました。

## 基本目標2 活気にあふれ、健康なまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

「自分が健康だと感じている」と回答した人の割合や「生活習慣病などが特にない」と回答した区民の割合はやや増加しています。

「過去1年の間に健康診断を受けた」と回答した人の割合に増減はありませんでした。健康診断を受けなかった理由として、「忙しくて受けられない」「費用が高くて受けられない」と回答した割合が高くなっています。

健康維持のための運動への取組は5.6ポイント減少し、バランスの良い食事など食生活の改善に取り組んでいる人の割合は3.8ポイント増加しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 健康診断を受けたいが、忙しくて受ける時間がない。
- ・ ひとり暮らしの高齢者は食事づくりが面倒になりがちで、3食食べないことが多い。
- ・ 子どもが小さいとなかなか運動する機会が少ない。

#### 区民からよせられたアイデア

- グランドゴルフなど幅広い世代が取組めるスポーツを通じて、地域で健康づくりを進めている。
- 町内会で体操教室に取り組んでいる
- 毎日少しずつ意識して、体を動かしたい。スポーツセンター等も利用したい。
- 近くの公園で行われているラジオ体操に参加している。朝規則正しい時間に活動をはじめ、近隣の人とも顔なじみになる。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標2に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

160件増            112件            272件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

- 【医師会】禁煙外来を開設したり、紹介しました。
- 【食品衛生協会】食中毒防止キャンペーンを開催しました。
- 【生活衛生協議会】区民まつりで健康増進についてPRしました。
- 【保健活動推進員】ウォーキングの日設定等により区民の運動習慣の定着化を図っています。
- 【さくら連絡会】リハビリのために行っているゲートボールを始める前に、血圧測定をして健康管理に力を入れている。
- 【区役所】ウォーキングを日常習慣化するため、マップやスタンプ帳などの啓発物品を作成



## 基本目標3 一人ひとりの個性を認め合い、みんなが共存するまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

「障害者（児）の方と共に活動を行う機会があった」、「これから参加したい」と思う割合が共に減少しています。

「ちょっと困ったことがあった場合に助けてくれる近隣の人や友人がいる」と答えた割合も4.6ポイント減少しました。また、異なる世代との交流への参加の意欲について参加したいという人の割合は減少しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・支援が必要な人が何に困っているのかがわからない。
- ・障害児と地域で活動する機会が少ない。
- ・山坂が多い地域では、高齢になると遠くまで買い物に行ったり、ごみ出しすることや分別が大変になる。

#### 区民からよせられたアイデア

- 障害者が自分の活動内容を地域に情報発信することが大切である。
- 頼まれればできることがあるが、困っている人がどこにいるのかがわからないので、橋渡しをしてくれる人が身近にいるとよい。
- 近隣で隣組のような組織を作り、困った時に近くで必ず連絡ができる人がいて、電話をすれば、まず聞いてくれるようなしくみづくり。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標3に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

21件増

124件

145件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【手話サークル西】講演という形で多くの聴覚障害者の話しを聞き、手話技術だけでなく、聴覚障害者をより深く理解しています。

【はーとメンバーズ】ピアカウンセリングの場を広めています。

【まつぼっくり会成人部】地域のお祭りへ参加しています。

【小学校】運動会種目に車椅子を取り入れる等車椅子体験学習の実施

【みらい工房西】地域の小中学生と交流を持ち、障害についての理解を深めてもらいました。

【区役所】障害者団体と協働で、区民向けの障害の理解に関する啓発講座を行いました。

【区社会福祉協議会】(障害福祉関係分科会)障害理解に関する啓発のため、「障害者週間キャンペーン」を実施しています。

## 基本目標4 地域全体がつながりを持つまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

「ちょっと困っている人に行っていること」について、「すでに支援を行っている」とし割合増えていますが、「現在行っていないが、今後できることがある」とした割合は減っています。近隣の助け合い活動を行っていない人に興味を持ってもらう働きかけが必要です。

また、「地域の中で自分の世代とは違った方と共に活動する機会があれば、参加したい」とした割合は2.5ポイント減少しています。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・地域活動は活発だが、各団体が縦割りになっている。互いの活動を理解しあう機会が少ない。
- ・一人の人が複数の役割を担っており、忙しすぎて町内会活動を広く知ってもらう情報を発信できない。
- ・転居してきた人は地域に知り合いが少なく、地域の行事に参加するきっかけづくりが難しい。

#### 区民からよせられたアイデア

- 地域の行事をおこなう際に、地区社会福祉協議会を中心に各団体が連携して企画・運営をし、地域に根付いている。団体をまとめる機能が大切。
- 高齢者の見守りや子育て支援など、民生委員・児童委員だけでなく、自治会町内会役員、友愛活動推進員、更生保護女性会、ボランティアなどが役割分担し、一緒に取組んでいる。
- 力仕事、料理上手、電気関係に詳しいなど自分の得意分野を生かし、町内で助け合う。掲示板などを活用し、広く活動内容を周知する。また、退職したばかりの人に地域活動の参加を促す。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標4に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

31件増                  60件                  91件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【食事サービスグループ】定例会を設けて意見交換しています。

【保育園】研修会等に参加し、他園との連携を結ぶ機会をつくっています。

【ケアプラザ】企業ボランティアと高齢者や介護者を対象とした事業を企画実施しています。

【区社会福祉協議会】テーマ別分科会（地区社協・高齢・障害・児童・ボランティア市民活動）を開催し、地域・施設・団体の連携を図り、情報交換を行うほか、研修・MAPづくり・イベント等を実施しています。

【区役所】子ども関係団体が連携しやすい仕組みづくりを検討します。

## 基本目標5 子どもが健やかに成長できるまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

未成年の喫煙については、「ほとんど見かけない」と回答した割合は8.8ポイント増えましたが、21年度においても「よく見かける、時々見かける」と回答した人が49.1%であり、引き続き未成年の喫煙防止に取り組んでいく必要があります。

子どもへの声かけ（0.9ポイント増）については5か年での大きな変化はありませんでしたが、子どもへ注意できるかについては、3.7ポイント減でした。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 子どもの数が減っている地域では、子ども会活動が困難になっている。一方、子どもの数が増えているところでは幼稚園の数や小学校の教室が不足している。
- ・ 道路を歩く時のマナーやポイ捨てなどルールを守らない子どもがいる。
- ・ 転居してきて周囲に知人がおらず、子育てに悩んでいる親がいる。

#### 区民からよせられたアイデア

- 子育て支援の場で自治会町内会の活動を伝え、若い世代への地域情報の伝達を行い、地域が子どもたちを見守っていることを教えている。
- 自治会町内会を年代別に部会に分けて、子どもの頃から地域の活動に参加し、地域への理解を深めるとともに、世代間でマナーやルールを教える。
- 声かけを積極的に行い、あいさつをしなかった子どもも顔見知りになると、信用しあいさつを返してくれるようになった。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標5に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

43件増

75件

118件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【歯科医師会】学校歯科医、幼稚園歯科医が食育についての講話の機会を見つけ実施しています。

【小学校】学校保健委員会で早寝早起き朝ごはんについて啓発、6年生の薬物防止教育に取り組んでいます。

【子育てプロジェクトにじ】地区社協と連携し、ケアプラザで3世代交流を実施しています。

【地域ケアプラザ】

【食生活等改善推進委員会】子どもや若い世代とのふれあい交流を通じた健康づくりの普及を行っています。

【区社会福祉協議会】（児童福祉関係分科会）子育て支援を行う団体向け研修会を実施しました。

【区役所】子育てに関わる団体同士の連携のきっかけづくりのため、リーフレットを作成

## 基本目標6 必要な情報が正確に伝わるまち

### ～個人の取組～

#### アンケート結果まとめ

西区からのお知らせや情報の入手方法として、ホームページから得るとした割合が1.6ポイント増加しました。一方、広報よこはま西区版（6.2ポイント減）、回覧板（9.5ポイント減）、区役所窓口のチラシ（7.4ポイント減）といずれの入手方法も減少しています。

「インターネットを活用している」と回答した割合は平成19年48%が21年度には55.1%と7.1ポイント増加しました。

#### アンケート、地区別懇談会、地域のつどい等での区民の意見（課題）

- ・ 情報量が多すぎて、何が必要な情報なのかわかりにくい。
- ・ パソコンを利用しない人もいるので、掲示板や回覧板などを活用するが、枚数が多く、正しい情報が伝わりにくい。
- ・ 身近な地域での情報や団体の活動を伝える方法がない。

#### 区民から寄せられたアイデア

- ホームページに自分ができるボランティア内容などを掲載し、支援が必要な人が情報を得る。
- バス停や病院など待ち時間であれば、掲示されているチラシをよく読む。より広く知ってもらいたい情報はチラシを掲示する場所を工夫する。
- 若い世代は、パソコンや携帯電話のメールなどから情報を得る傾向がある。
- 近隣の人から行事に誘われたり、同じ世代の人から聞く口コミ情報が信頼感を得やすい。

### ～団体・行政の取組～

#### 目標6に対する取組数

【平成17年度】 → 【平成20年度】

34件増

36件

70件

#### 団体・行政が力を入れた具体的な取組

【薬剤師会】 ホームページを通じた情報提供をしました。

【更生保護女性会】 子育て支援の場で母親たちに情報を伝えました。

【獣医師会】 野良猫問題について相談を受け、一緒に考える会があるということを伝えました。

【eネットにし探検隊】 eネットにし探検隊では各地区で行われている地域に密着した行事や団体の活動をまとめて、わかりやすい情報を発信しました。

【第一戸部荘】

【区役所】 広報よこはま西区版のページ数を増やし、タイムリーな情報を掲載し内容の充実を図りました。

【区社会福祉協議会】 ホームページを改訂し内容の充実を図りました。新たにボランティア情報紙を発行しました。情報発信支援のため団体向けチラシ講座を開催しました。

## ○素案（案）への委員意見と反映の方向性（案）

委員意見	計画への反映の方向性（案）
<p>特に地区別計画については、策定後の推進の実効性を担保するためにも、幅広い住民参加を経て策定することが重要である。</p>	<p>区民意見募集や素案の説明・意見交換会を実施する予定です。 幅広い住民参加を経て、意見を反映させて、計画（案）をまとめてまいります。 （詳細については、議題4でご説明いたします。）</p>
<p>地区別計画については、地区により課題が異なることや取組の優先順位が異なることはあって当然と考えるが、地域福祉保健計画として適当な内容となっているかを策定委員会として確認をする必要がある。</p>	<p>第5回委員会で御確認いただき、必要に応じて、調整をまいります。</p>
<p>策定期間が5年毎が適正であるのか疑問である。社会変化のスピードに合わせて考慮されるべきである。</p>	<p>第2期地域福祉保健計画は6年後の大きなビジョンを示すものとなります。各推進主体の毎年の具体的な取組において社会変化に対応した取組となるものと考えます。</p>
<p>第2期計画については、答えを出さなければならないと同時に日常生活の中で、どのような具体的な取組ができるかしっかり検討をされなければならない</p>	<p>第2期計画では、基本目標ごとの重点推進目標を達成するために具体的に取組む事項と数値目標を定めることで、計画の推進を図っていきます。</p>
<p>福祉保健推進の目標値については、6年後が最終年度ならすべて100%に置くべきで、実効性については今後の課題である</p>	<p>第1期の目標値の達成状況を踏まえ、第2期計画として次の6年間の目標値としており、課題により6年後を最終年度とするものについては100%とすべきと考えます。 また、第2期計画以降も永続的に推進していくものについては、6年間の到達目標を数値化すべきと考えます。</p>
<p>自治会町内会未加入世帯と地域との連携を好まない住民が増加しており、このような現状にどのように対処していくべきか大変苦慮している。</p>	<p>地域のつながりの強化や一人ひとりと地域との関係づくりは第2期計画の重要な柱として推進していきます。</p>
<p>福祉保健推進の目標値のうち、「今後も西区に住み続けたい」人の割合が57%というのは、数値だけ見ると西区が悪いまちのようにみえてしまうので、説明を加える必要がある。</p>	<p>交通至便な地域に就労等のために一時的に住居を構える人の数が多いことも理由の一つと考えられますので、西区の特徴として記述するなどの工夫をまいります。 なお、横浜市民生活白書によると市民の定住の意向は60.9%で西区とほぼ同程度となっています。</p>

○団体ヒアリング実施状況（21年9月18日現在）

	団体名	実施日	実施者
1	地区社協分科会(参加団体数6)	7月3日	区・区社協
2	高齢分科会(参加団体数 )	7月8日	区・区社協
3	ボランティア分科会(参加団体数 )	7月27日	区社協
4	児童福祉分科会(参加団体数 )		区社協
5	障害福祉分科会(参加団体数 )	9月10日	区社協
6	西区生活支援ネットワーク	7月21日	区社協
7	みらい工房 西	8月7日	区社協
8	戸部本町地域ケアプラザ	8月5日	区
9	宮崎地域ケアプラザ	8月6日	区
10	浅間台地域ケアプラザ	8月7日	区
11	藤棚地域ケアプラザ	8月7日	区
12	戸部本町地域ケアプラザ通所介護		戸部CP
13	宮崎地域ケアプラザ通所介護	9月11日	宮崎CP
14	浅間台地域ケアプラザ通所介護	9月11日	浅間台CP
15	藤棚地域ケアプラザ通所介護	9月12日	藤棚CP
16	子育て支援プロジェクト「にし」	8月18日	区
17	主任児童委員	9月3日	区
18	子ども会連絡協議会	9月1日	区
19	西 ともしび	9月11日	浅間台CP
20	まつぼっくり会学校部	9月10日	社協
21	赤い靴	9月9日	社協
22	みつわの会	9月9日	藤棚CP
23	レスパイトケア 萌	8月24日	区
24	シャーロックホームズ	8月25日	区
25	保健活動推進員会	9月14日	区
26	さくら連絡会	8月29日	戸部CP
27	ほっと幸せ会	8月29日	戸部CP
28	無限夢工房運営委員会	9月2日	区
29	精神障害者生活支援センター	9月18日	区
30	eネットにし探検隊	9月17日	藤棚CP
31	障害者自立支援協議会	9月16日	区

○今後の団体ヒアリングの予定

32	食生活等改善推進員	10月20日	区
33	民生委員・児童委員	10月26日	区・区社協
34	はーと工房	9月29日	区
35			
36			
37			

# 案

平成 21 年 月 日

西区地域福祉保健計画推進・評価委員会  
委員長 岩崎 忠雄 様

第 2 期西区地域福祉保健計画策定委員会  
委員長 柳川 荘一郎

## 第 2 期西区地域福祉保健計画素案（案）の報告について

第 2 期西区地域福祉保健計画について、策定委員会において素案（案）をまとめましたので報告します。

なお、素案を最終的な計画（案）としていくためには、特に次の点について引き続き調整・検討し、追加や修正を加えていく必要があります。

策定委員会においては、今後、区民意見等を踏まえ、素案を修正したうえで、平成 22 年 2 月ごろ推進・評価委員会に対し計画（案）を報告いたします。

### 1 幅広い区民意見の集約

策定委員会では、区民アンケート（意識調査）や地区別の懇談会の意見を踏まえ素案（案）をまとめてきましたが、西区に暮らす一人ひとりが主体となって計画の推進を図っていただくため、広く区民の意見を集約し、計画に反映させる必要があります。

### 2 みなとみらい 21 地区に関する記述と素案の周知・意見募集

地区別計画は地区連合町内会単位で策定を進めていますが、地区連合町内会が現時点では作られていないみなとみらい 21 地区についても同様に計画へ記述していく必要があります。

また、素案の周知や意見募集についても、他の地区と同様に進めていく必要があります。

### 3 法制度等の見直しの動向

国レベルでは、地域福祉保健計画と関係する法律や制度の見直しが検討されていることもあり、今後の動向を踏まえる必要があります。

### 4 計画の推進施策

第 2 期計画を区民・団体が具体的に推進していくための実効性のある施策を検討していく必要があります。

担 当：西区福祉保健課運営企画係  
柿沼 小幡

電 話：320-8437

F A X：324-3703

○周知・意見募集と計画策定までのスケジュール

日にち	曜日	主なスケジュール	内容等	意見募集の中心		備考
				区全域 計画	地区別 計画	
9月28日	月	策定委員会(第5回)	地区別計画の検討状況報告 素案(案)作成			
10月11日	日	アンケート実施(健民祭)	地区別計画案等へのアンケート		◎	第一～第五地区
10月12日	祝	アンケート実施(健民祭)	地区別計画案等へのアンケート		◎	第6地区
10月27日	火	推進評価委員会(第1回)	素案確定			
11月～		素案公表・意見募集開始				広報区版で案内
11月1日	日	区民まつり	計画素案への意見募集	◎		
11月下旬 ～ 12月中旬		素案説明会・意見交換会	計画素案への意見募集	◎	◎	自由参加型(裏面)
		地区連を通じた周知・意見募集	計画素案への意見募集	○	◎	
		地域の行事等での意見募集	計画素案への意見募集	○	◎	
1月下旬		策定委員会(第6回)	意見を踏まえた素案(*)修正 →計画案作成			
2月下旬		推進評価委員会(第2回)	計画案確定			
4月～		第2期計画スタート				

\* 第6回委員会で検討する地区別計画案は、意見募集結果を踏まえ、各地区の懇談会で案を修正したものとします。



## 素案説明会・意見交換会について（案）

### 1 趣旨

第2期西区地域福祉保健計画の素案に対し、広く区民の意見をいただく場の一つとして、素案説明会・意見交換会を開催します。

### 2 日程等

実施時期	会場
11月下旬～12月上旬	西区役所 (中央 1-15-10)
	西区福祉保健活動拠点 (高島 2-7-1)
	西スポーツセンター (浅間町 4-340-1)

### 3 その他

詳細については、決まり次第、委員の皆様にもお知らせいたします。